



TITLE:

# 平成27年度学内オープンアクセス 費支出状況調査報告書

AUTHOR(S):

鈴木, 秀樹; 坂本, 拓; 塩野, 真弓; 長坂, 和茂; 佐藤, りん; 西川, 真樹子; 八木澤, ちひろ; 古森, 千尋; 天野, 絵里子

---

CITATION:

鈴木, 秀樹 ...[et al]. 平成27年度学内オープンアクセス費支出状況調査報告書. 2016: 1-50

ISSUE DATE:

2016-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/210594>

RIGHT:

# 平成 27 年度学内オープンアクセス費支出状況調査報告書

京都大学図書館機構 APC ワーキンググループ

平成 28 年 2 月

## 目 次

概要	1
1. オープンアクセス費の定義	2
2. データベースによるオープンアクセス費推計	4
3. 学内の投稿料処理伝票によるオープンアクセス費把握の可能性	13
4. 学内研究者へのインタビューによるオープンアクセスに関する意識調査	19
5. オープンアクセス費のディスカウントオプション	26

資料1	オープンアクセス費の定義
資料2	データベースによるオープンアクセス費推計
資料2-1	2014年オープンアクセスジャーナル投稿状況出版社別集計（推計）
資料2-2	2014年オープンアクセスジャーナル投稿状況部局別集計（推計）
資料2-3	2014年ハイブリッドジャーナル投稿状況出版社別集計（推計）
資料2-4	2014年ハイブリッドジャーナル投稿状況部局別集計（推計）
資料2-5	投稿状況及び投稿料の動き（2013～2014年）
資料2-6	論文投稿先上位52タイトル
資料2-7	論文投稿先出版社上位20社
資料3	学内の投稿料処理伝票によるオープンアクセス費把握について
資料3-1	【オープンアクセス費把握のための改善提案資料】
資料3-2	【論文投稿料把握のための通知文書】
資料4	学内研究者へのインタビューによるオープンアクセスに関する意識調査
資料4-1	【学内研究者へのインタビュー結果】
資料5	オープンアクセス費のディスカウントオプション
資料5-1	APC割引一覧（2015.12現在）

参考資料1	ScopusからAPCを算出する手順書
参考資料2	責任著者空白調査手順書
参考資料3	APCと割引情報を調べるための手順書
参考資料4	インタビュー手引書
参考資料5	【インタビュー項目表】
参考資料6	京都大学オープンアクセス方針

## 学内オープンアクセス費支出状況調査報告書の概要

### 1. 趣旨

本学では、多額の経費を支払い多くの電子ジャーナルを読むことができる環境を整えているが、購読費として支払う経費に加え、近年は、論文をオープンアクセスにするための費用（「オープンアクセス費」）を著者が出版社に支払い、誰もが無料で読むことができる電子ジャーナルもしくは論文として公開するケースが増加している。このことにより、従来からの購読費は上昇を続け、さらに、オープンアクセス費の増加により、総額として大学が研究活動のために係る費用が急増しているという課題が顕在化している。（詳細は、資料1「オープンアクセス費の定義」を参照）

本ワーキンググループでは、昨年度に引き続き、以下のとおり本学教員によるオープンアクセス費の支出やオープンアクセス費を巡る状況を調査した。

### 2. 調査結果概要

#### （1）データベースによるオープンアクセス費推計

「Scopus」というデータベースを用い、本学教員によりオープンアクセス費が支払われたと思われる論文を抽出し、部局別・出版社別に支出額を算出した。その結果、推計 6,700 万円が、著者から出版社へ支払われていることが判明した。前年度に行った同様の調査では約 5,000 万円の支出額が推計されており、前年比約 34%増となった。オープンアクセス費として支出される件数の増加やオープンアクセス費自体の上昇によるものと考えられる。

#### （2）学内の投稿処理伝票によるオープンアクセス費把握について

本学が支払うオープンアクセスに係る投稿料をより正確に把握するには、財務会計システム上で集計する方法が最も的確である。そのためには、システムから簡便に抽出することができるよう、入力時に決められた項目に一定の書式で入力することが必要である。オープンアクセス費を把握することの目的及び必要性和合わせて、財務会計システムへ論文投稿料を入力する際のフォーマットを定め、会計担当職員への通知を行った。

#### （3）教員インタビューによる意識調査

オープンアクセスジャーナル等に論文を投稿した教員へのインタビューを行い、オープンアクセスに関する意識調査を行った。APC 支払い実績のある教員を対象者としたため、オープンアクセスに対する意識はいずれも高く、今後もオープンアクセスが進むと考える研究者が多かった。オープンアクセスや APC の支払いに関しては、専門分野や個人の考え方により様々な意識を持っていることが分かった。

#### （4）オープンアクセス費のディスカウントオプション

オープンアクセス費の割引について、本学に適用されるものがあるか、前年度と同様、「（1）データベースによるオープンアクセス費推計」で抽出した論文の掲載誌およびそのほかの主要出版社について調査を行った。さらに、論文の著者が本学構成員の場合に適用される割引情報を京都大学図書館機構のサイトに掲載した。

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content\\_id=89](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=89)

今後は、割引情報を最新の状況に維持することと、投稿者に向けて、より適切に情報を伝達する方法を検討することが必要である。

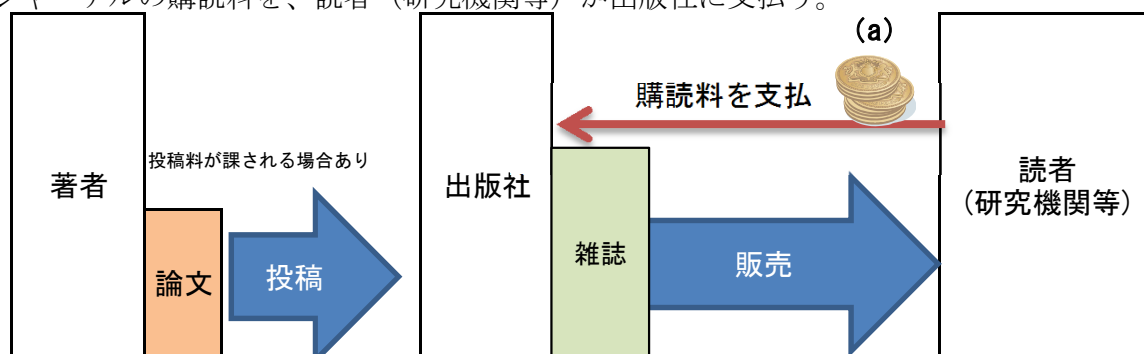
## 1. オープンアクセス費の定義

### ■オープンアクセス費とは

オープンアクセス費とは、著者が電子ジャーナル掲載論文を無料公開とするために出版社に支払う費用のことである。Article Processing Charge (APC)、Article Processing Fee、Publication Feeなどとも表現される。従来より、読者が購読料を支払う下記Aのケースが主流であったが、著者がオープンアクセス費を支払う、下記BやCのケースが急増している。従来の出版では、著者は出版社に著作権を譲渡していたが、オープンアクセス費を支払うと、ほとんどの場合、著者は著作権を保持できるなど、投稿料とは異なる位置づけのものである。

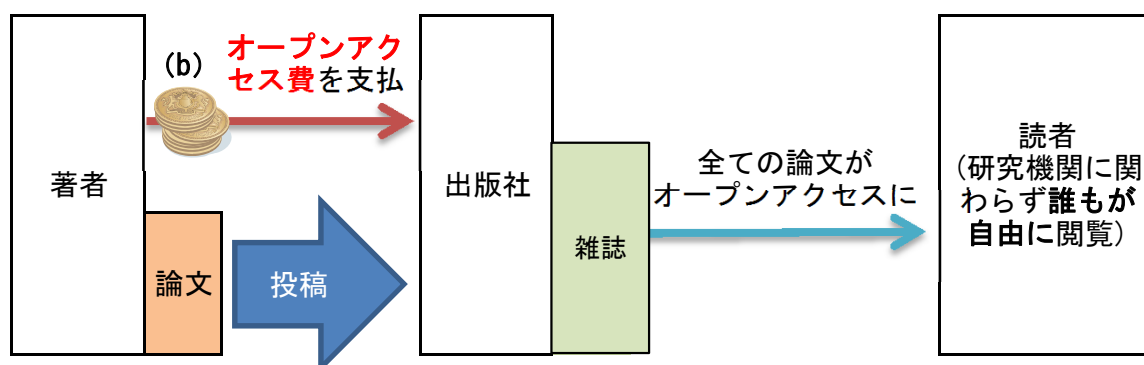
#### A. 従来型支払モデル

電子ジャーナルの購読料を、読者（研究機関等）が出版社に支払う。



#### B. 著者支払・読者無料型オープンアクセスジャーナル

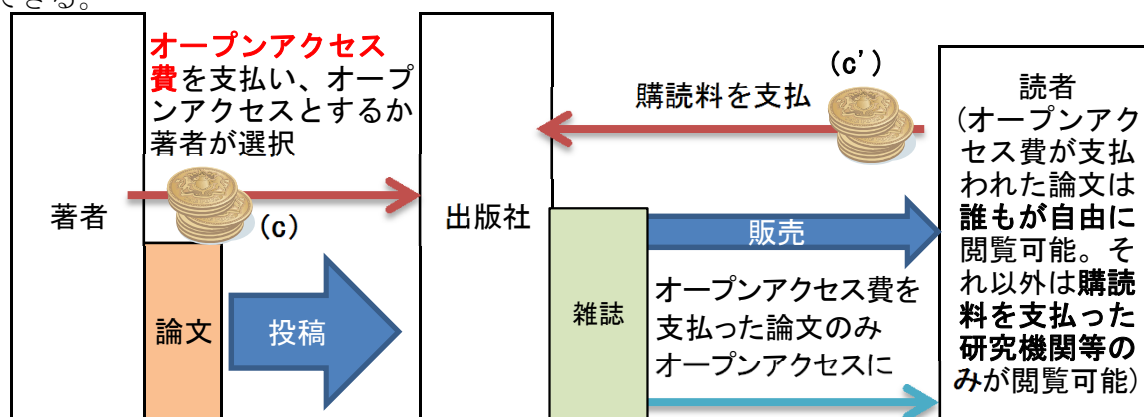
著者がオープンアクセス費を支払い、掲載された論文は誰もが自由に閲覧することができる。



本学所属の研究者から多額のオープンアクセス費が出版社に支払われている可能性あり

#### C. 著者選択支払・部分的オープンアクセスジャーナル(以下ハイブリッドジャーナル)

著者がオープンアクセス費を支払い、オープンアクセスにするか選択できる。オープンアクセスになったものは、電子ジャーナルを購読していない機関の研究者も読むことができる。



オープンアクセス費と電子ジャーナル購読料の二重払いの可能性あり

課 題	従来型支払モデルによる支出(a)は減少していないにもかかわらず、オープンアクセス費による支出が増加しており、総額として研究者（大学）が研究発表にかかる費用が増加している。 $(a)+(b)+(c)+(c')$
	ハイブリッドジャーナルのケースでは、購読料とオープンアクセス費を二重に支払っている $(c)+(c')$
	本学教員がオープンアクセス費をどの出版社にいくら支払っているのかを調査することは現状としては困難である。 $(b)+(c)$
	今後、オープンアクセス費の支払いは加速度的に増加することが予測されている。本学教員がオープンアクセス費をいくら支払っているのかを早急に把握する必要がある。

## 2. データベースによるオープンアクセス費推計

### 1. 調査内容

京都大学の所属研究者が、2014 年（1 月～12 月）に発表した学術雑誌掲載論文の中から、オープンアクセス費が発生しているオープンアクセスジャーナル掲載論文とハイブリッドジャーナル掲載論文をそれぞれ抽出し、オープンアクセス費を推計算出した。

### 2. 使用データベース

Scopus（Elsevier 社が提供する論文データベース）

### 3. 調査項目

- （1）オープンアクセスジャーナルへの掲載のためオープンアクセス費支払い状況
  - 出版社別 （資料 2-1）
  - 部局別 （資料 2-2）
- （2）ハイブリッドジャーナルへのオープンアクセス費支払い状況
  - 出版社別 （資料 2-3）
  - 部局別 （資料 2-4）
- （3）投稿状況及び投稿料の動き（2013～2014 年）（資料 2-5）
- （4）論文投稿先ジャーナル
  - タイトル別（資料 2-6）
  - 出版社別 （資料 2-7）

### 4. 調査結果概要

- 2014 年、オープンアクセスジャーナルへの投稿料が約 5,760 万円、ハイブリッドジャーナルへの投稿料が約 940 万円あり、総額 約 6,700 万円のオープンアクセス費が学内研究者から出版社に支払われている。2013 年と比べて、特にオープンアクセスジャーナルへの投稿料が伸びている。原因として、オープンアクセスジャーナルへの投稿数の増加、APC の増額、円安などが考えられる。
- ハイブリッドジャーナルへの支払いよりも、オープンアクセスジャーナルへの支払いが圧倒的に多い。
- オープンアクセスジャーナル、ハイブリッドジャーナルともに、医学研究科・農学研究科など、主に生命科学を扱う部局からの投稿が多くなっている。
- この調査を行うに当たって、データベース内で最も重要となる「著者所属機関」のデータに関して、Scopus では様々な表記の揺れがある。対象となる論文を取りこぼしているおそれがあり、データベースによる調査には限界がある。

2014年オープンアクセスジャーナル投稿状況  
出版社別集計(推計)

順位	出版社	件数	オープンアクセス費(円)
1	Public Library of Science (PLoS)	80	13,957,206
2	Frontiers Media SA	32	6,795,008
3	Biomed Central	28	6,490,480
4	Elsevier	28	5,732,424
5	Nature Publishing Group	27	5,331,024
6	Oxford University Press	36	4,689,304
7	Wiley Blackwell	8	2,418,376
8	MDPI AG	10	1,527,067
9	Dove Medical Press	6	1,375,806
10	Optical Society of America	6	1,073,123
11	BMJ Journals	4	979,344
12	Hindawi Publishing Corporation	7	966,724
13	American Institute of Physics	3	737,616
14	Ferrata Storti Foundation	2	436,852
15	E S Burioni Ricerche Bibliografiche	1	402,336
16	Karger Publishers	5	396,340
17	Baishideng Publishing Group	3	368,139
18	SpringerOpen	3	363,780
19	Ivyspring International Publisher	2	355,500
20	SAGE Publications	2	291,530
21	JMIR Publications Inc.	1	279,400
22	Acta Dermato-Venereologica	2	253,656
23	Meteorological Society of Japan	3	248,000
24	Japanese Society for Plant Cell and Molecular Biology	8	215,000
25	Chemistry Central	1	201,168
26	Japanese Society of Animal Reproduction	2	170,000
27	The American College of Medical Physics and American Institute of Physics	3	167,640
28	Crop Science Society of Japan	2	145,000
29	Bioscientifica	1	136,020
30	Japan Atherosclerosis Society	4	120,000
31	Genetics Society of Japan	3	108,000
32	Bentham open	1	89,408
33	Anthropological Society of Nippon	1	65,000
34	The Japanese Circulation Society	3	60,000
35	Copernicus GmbH	1	59,891
36	The Oceanography Society	1	55,880
37	Japan Society for Occupational Health	1	50,000
37	Society of Physical Therapy Science	1	50,000
39	The Japan Endocrine Society	1	49,000
40	Society of Rheology Japan	3	46,000
41	Canadian Center of Science and Education	1	44,704
42	Pensoft Publishers	1	42,276
43	Pharmaceutical Society of Japan	5	40,000
44	Tohoku University Medical Press	1	40,000
45	Schloss Dagstuhl -- Leibniz-Zentrum fuer Informatik	1	35,230
46	Acoustical Society of Japan	1	35,000
47	Biomedical Research Press	1	33,000
48	Japan Laser Processing Society	3	30,000
49	Japanese Society of Veterinary Science	2	26,000
50	PeerJ	1	11,065
51	IOP Publishing	36	不明
52	Japanese Society of Internal Medicine	5	不明
53	Japan Neurosurgical Society	4	不明
54	Japan Society for Analytical Chemistry	3	不明
55	Osaka University	2	不明
56	The Surface Science Society of Japan	2	不明
57	Medical Association of Nippon Medical School	1	不明
58	SciELO	1	不明
59	Japan Society of Equine Science	1	不明
60	Indian Academy of Neurosciences	1	不明
61	Economics Bulletin	1	不明
62	University of California, Davis	1	不明
63	Electronic Journals Project	1	不明
64	Microtome Publishing	1	不明
65	Beilstein-Institut	4	0
66	Medknow Publications	2	0
67	The Japan Academy	2	0
68	Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University	2	0
69	Journal of Algorithms and Applications	1	0
70	Japanese Society for Lymphoreticular Tissue Research	1	0



順位	出版社	件数	オープンアクセス費(円)
71	American Physical Society	1	0
72	NISCAIR	1	0
73	Logical Methods in Computer Science	1	0
74	Al-Jami'ah Research Centre	1	0
75	eLife Sciences Organisation, Ltd.	1	0
76	Editorial Committee of Japanese Journal of Infectious Diseases, National Institute of Infectious Diseases	1	0
77	National University of Singapore	1	0
計		432	57,594,317

○ レートは、前金雑誌の契約の際に一つの基準とする、2014年10月24日から11月7日までの三菱東京UFJ銀行の平均レートを用いている。

○ 不明分については、オープンアクセス費の単価がwebサイトで公開されていないものである。

**2014年オープンアクセスジャーナル投稿状況  
部局別集計(推計)**

順位	所属	件数	オープンアクセス費(円)	内訳		
1	医学研究科	143	22,838,972			
2	農学研究科	25	3,036,238			
3	薬学研究科	17	2,714,043			
4	理学研究科	30	2,534,640	専攻	件数	金額
				理物理	15	240,000
				理生物	8	1,454,366
				理化学	4	765,274
				理地球惑星	2	75,000
				理数学	1	不明
5	iPS細胞研究所	10	2,267,304			
6	医学部附属病院	12	2,060,037			
7	霊長類研究所	13	1,944,387			
8	化学研究所	15	1,927,999			
9	工学研究科	36	1,888,519	専攻	件数	金額
				工物理	16	779,092
				工化学	9	497,939
				工電気	7	413,290
				工地球	2	163,198
				工建築	2	35,000
10	ウイルス研究所	8	1,822,932			
11	情報学研究科	14	1,658,773			
12	生命科学研究科	9	1,654,986			
13	物質－細胞統合システム拠点	5	1,371,420			
14	再生医科学研究所	6	1,334,541			
15	人間・環境学研究科	11	1,258,321			
16	放射線生物研究センター	3	858,876			
17	文学研究科	4	705,042			
18	原子炉実験所	7	648,892			
19	生存圏研究所	12	618,898			
20	エネルギー理工学研究所	3	543,714			
21	教育学研究科	2	424,688			
22	生態学研究センター	3	374,164			
23	基礎物理学研究所	13	360,000			
24	防災研究所	3	340,706			
25	野生動物研究センター	3	334,722			
26	健康科学センター	3	284,836			
27	人文科学研究所	1	239,726			
28	アジア・アフリカ地域研究研究科	4	216,815			
29	産官学連携本部	3	216,645			
30	こころの未来研究センター	1	212,344			
31	微生物科学寄附研究部門	1	170,000			
32	総合生存学館	1	170,000			
33	経済学研究科	2	167,082			
34	低温物質科学研究センター	1	167,082			
35	経営管理大学院	1	167,082			
36	地球環境学堂	1	59,891			
37	数理解析研究所	2	不明			
37	エネルギー科学研究科	1	不明			
37	放射性同位元素総合センター	1	不明			
40	福井謙一記念研究センター	2	0			
総計		432	57,594,317			

○ レートは、前金雑誌の契約の際に一つの基準とする、2014年10月24日から11月7日までの三菱東京UFJ銀行の平均レートを用いている。  
○ 不明分については、オープンアクセス費の単価がwebサイトで公開されていないものである。

**2014年ハイブリッドジャーナル投稿状況  
出版社別集計(推計)**

順位	出版社	件数	オープンアクセス費(円)
1	Nature Publishing Group	3	1,984,500
2	Springer-Verlag	9	1,676,400
3	Elsevier	7	1,586,992
4	Wiley Blackwell	7	2,319,020
6	Ovid Technologies (Wolters Kluwer) - Lippincott Williams & Wilkins	1	335,280
7	Informa UK (Taylor & Francis)	1	329,692
8	IOP Publishing	4	301,752
9	Oxford University Press	1	284,988
10	Institute of Electrical and Electronics Engineers	1	195,580
11	Association for Computing Machinery	1	189,992
12	American Society of Plant Biologists	1	167,640
13	De Gruyter	1	不明
	総計	37	9,371,836

- レートは、前金雑誌の契約の際に一つの基準とする、2014年10月24日から11月7日までの三菱東京UFJ銀行の平均レートを用いている。  
○ 不明分については、オープンアクセス費の単価がwebサイトで公開されていないものである。

2014年ハイブリッドジャーナル投稿状況  
部局別集計(推計)

順位	所属	件数	オープンアクセス費(円)	内訳		
1	医学研究科	8	3,250,860			
2	理学研究科(生物)	3	1,030,308			
3	工学研究科	4	888,492	専攻	件数	金額
4				工地球	3	586,740
5				工電気	1	301,752
6	生態学研究センター	2	670,560			
7	情報学研究科	2	519,684			
8	環境保全センター	1	335,280			
9	数理解析研究所	1	335,280			
10	医学部附属病院	1	335,280			
11	再生医科学研究所	1	335,280			
12	農学研究科	1	335,280			
13	化学研究所	1	290,576			
14	物質－細胞統合システム拠点	1	290,576			
15	基礎物理学研究所	5	284,988			
16	薬学研究科	1	251,460			
17	理学研究科	5	217,932	専攻	件数	金額
				理化学	1	217,932
				理地球	1	不明
				理物理	3	0
	総計	37	9,371,836			

- レートは、前金雑誌の契約の際に一つの基準とする、2014年10月24日から11月7日までの三菱東京UFJ銀行の平均レートを用いている。
- 不明分については、オープンアクセス費の単価がwebサイトで公開されていないものである。

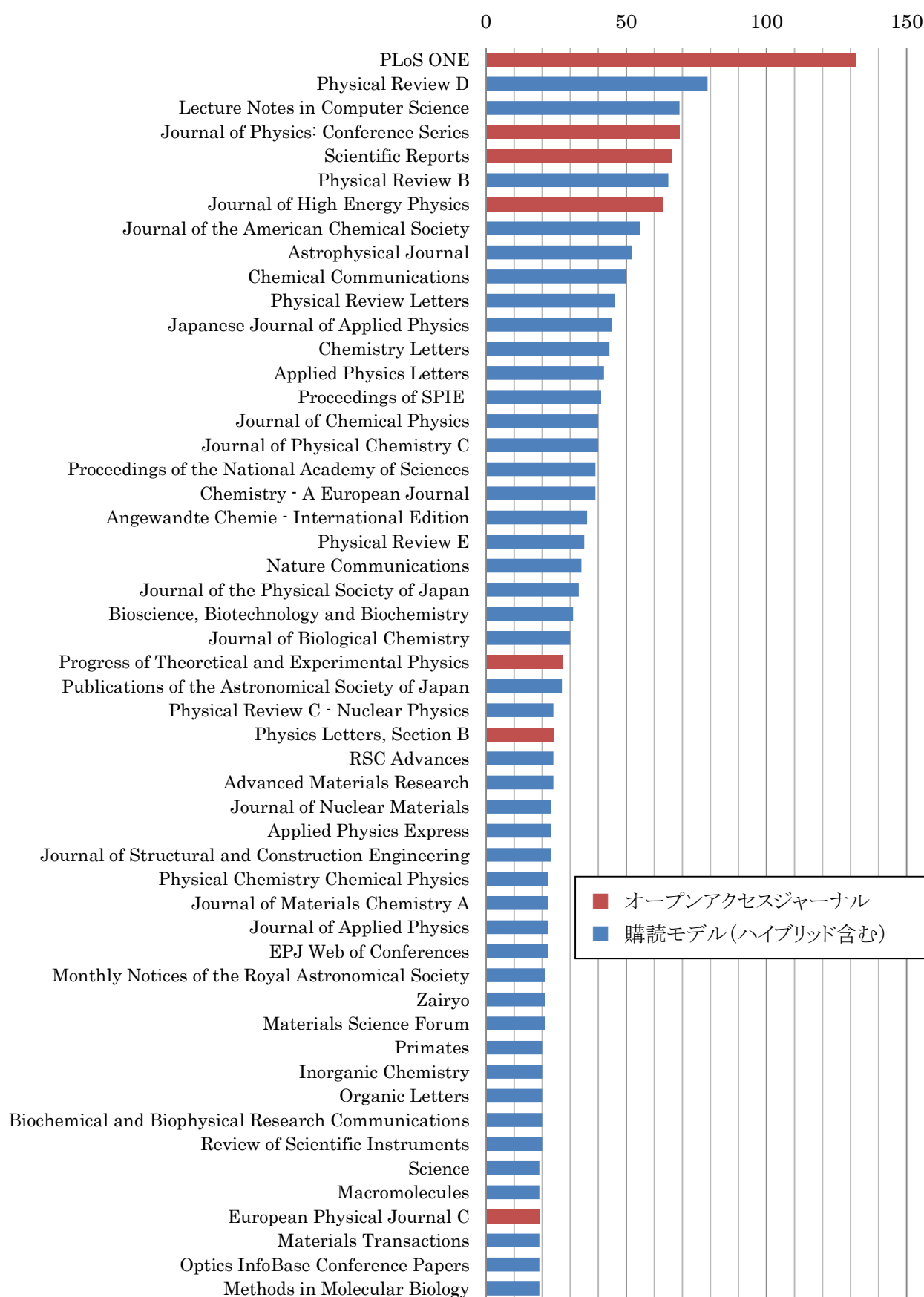
## 投稿状況及び投稿料の動き(2013～2014年)

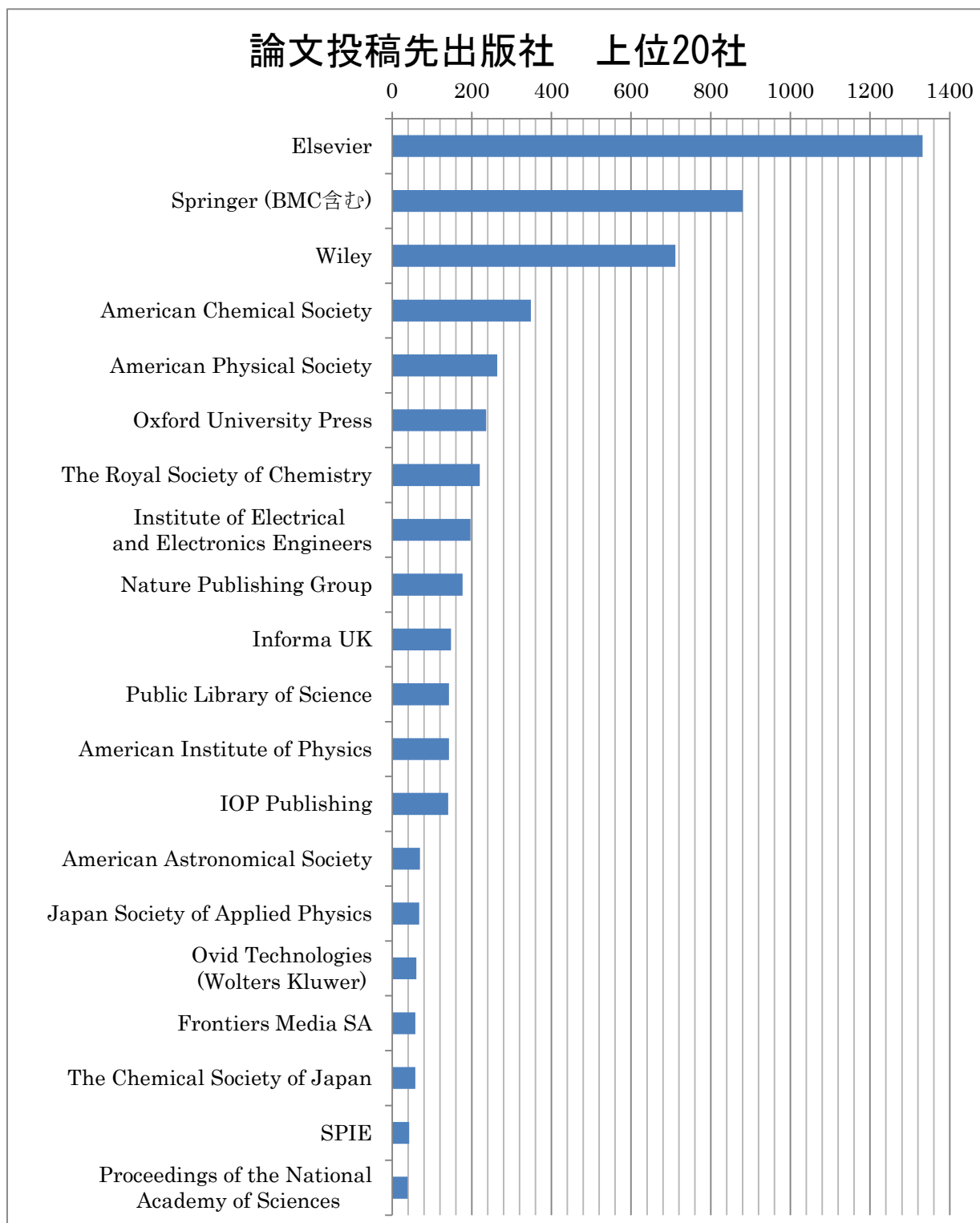
	2013年	2014年	前年比
APCを支払った件数	311	390	125.40%
Full OAジャーナルのみ	273	353	129.30%
Hybrid OAのみ	38	37	97.37%
金額	¥ 51,408,319	¥ 66,966,153	130.26%
Full OAジャーナルのみ	¥ 38,557,014	¥ 57,594,317	149.37%
Hybrid OAのみ	¥ 12,851,305	¥ 9,371,836	72.93%
金額(2013年レートで換算)	¥ 51,408,319	¥ 60,659,944	118.00%
Full OAジャーナルのみ	¥ 38,557,014	¥ 52,138,154	135.22%
Hybrid OAのみ	¥ 12,851,305	¥ 8,521,790	66.31%
・主要ジャーナルのAPC変動	2014年10月	2015年11月	変動比
PLoS ONE (PLoS)	\$ 1,350	\$ 1,495	110.74%
Scientific Reports (NPG)	¥ 142,500	¥ 170,000	119.30%
Frontiers in Psychology (Frontiers Media)	\$ 1,600	\$ 1,900	118.75%
SpringerPlus (Springer)	\$ 1,170	\$ 1,085	92.74%

## 考察

- ・為替の影響が1割程度あるが、それを除いても、APCの件数、原価ともに値上がり傾向にある。
- ・Hybrid OAの金額減少は、単価が高いNature Communicationsの件数が減ったため。
- ・Nat. Commun.は2014年10月19日の投稿分からFull OAとなっており、来年以降、Full OAの件数・金額の大幅増が予想される。

## 論文投稿先上位 52タイトル





### 3. 学内の投稿料処理伝票によるオープンアクセス費把握について

#### 1. 学内での財務会計システムでの投稿料処理の現状

##### (1) 全学で統一されている規則

投稿料は、勘定科目に「雑費」、補助科目に「雑役務費」と入力することが、「契約 Q&A」により定められている。

##### (2) 部局毎の取扱い（平成 26 年度調査）

上記勘定科目と補助科目だけでは、投稿料の伝票とそれ以外とを識別できないため、摘要欄に、投稿料であることが識別できる何らかの文言が記載されていないか、平成 26 年度に、会計担当者へのヒアリング調査を行った。その結果、全学的にも、部局内でも処理が統一されていないこと、加えて、財務会計システムの伝票だけでは、オープンアクセス費と、そうではない従来の一般的な投稿料との判別は困難であることが判明した。

#### 2. 財務会計システムから投稿料を把握するための提案

(1) 平成 27 年 4 月 15 日、部長会議において資料 3－1 により提案を行った。

(2) 平成 28 年 3 月 15 日付文書により、各部局会計担当者等へ資料 3－2 により通知し、理解と協力を求めた。



# オープンアクセスの方法

## 現状・課題

1. 無料でオープンアクセスに: 機関リポジトリの活用
2. 有料でオープンアクセスに: 論文投稿料(APC)を支払う。オープンアクセスにするために、研究者は論文投稿料を支払う
  - ・ APC は出版社ごとに多様。多くの出版社が論文投稿料の割引方式(ディスカウント・オプション)を用意。
  - ・ 出版社が提供するディスカウント・オプションの網羅的な情報取得が困難
  - ・ 研究者がディスカウント・オプションの情報を知らず、研究費に無駄な支出が発生している可能性

論文を投稿する前に、研究者自身がオープンアクセスの方法を知っていることが不可欠

## 全学的

### 1. 無料でオープンアクセス化する方法

- 学術情報リポジトリ KURENAI に登録し、論文をオープンアクセス化
- 論文投稿料が不要

### 2. 論文投稿料(APC)のディスカウント・オプションを利用する方法

- 論文のオープンアクセス化の推進と効率的な経費の執行のため、ディスカウント・オプションの利用を促進
- ディスカウント・オプションを学内研究者に広報

## 対策

## 図書館機構

### オープンアクセス方針の策定(予定)

- ✓ 京都大学の教員の研究成果を KURENAI によりオープンアクセスにするポリシー
- ✓ 出版社がリポジトリでの公開を禁じているなどの特別な理由が無い限り、原則全ての論文を KURENAI でオープンアクセス化

### ディスカウント・オプションをまとめたウェブサイト構築

京都大学図書館機構  
The University of Kyoto Library

HOME 資料検索 学術研究サポート 特種コレクション サービス 図書館・室一覧 図書館について

オープンアクセスについて

京都大学図書館機構 > オープンアクセスについて > オープンアクセス投稿料の割引情報について

オープンアクセスとは  
KURENAIによるセルフアーカイブ  
OA論文投稿料割引情報

オープンアクセス誌投稿料の割引情報について

論文をジャーナルに投稿する際、掲載論文をオープンアクセスにするために、Article Processing Charge(APC)と呼ばれる場合があります。該当するジャーナルを京都大学で購読している場合に、特典として京都大学構成員のAPCに割引が適用。対象となる出版社・ジャーナルと手続きの詳細は、以下をご覧ください。

出版社: ACS | BMC | Springer | EGS | IBSC  
ジャーナル: Br. J. Cancer | J. Endocrinol. | Science Advances | Reproduction | ENAS

出版社

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content\\_id=89](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=89)

### チラシの作成・配布

アクセプトされたらそれで終わり? いいえ、あなたの論文

**オープンアクセス**  
OPEN ACCESS

にしていますか?

研究者にとってのオープンアクセスのメリット

- ・ インターネット上で全世界の人に無料で論文を読んでもらえる
- ・ 論文が引用される可能性が高まる
- ・ 研究成果を社会に還元することが出来る (国際責任が果たされる)
- ・ インターネットがなければ自分の論文をいっつも確認できる

問い合わせ: [ajd@kulib.kyoto-u.ac.jp](mailto:ajd@kulib.kyoto-u.ac.jp) 京都大学図書館機構



# 京都大学における論文投稿料（APC）の実態把握のための改善提案

## 現状

1. 研究成果の公開（論文のオープンアクセス化等）が社会から要請されている
2. オープンアクセスとは、論文をインターネット上で**誰もが**読めるようにすること
3. オープンアクセスするために料金を支払う場合がある
  - ① 論文投稿料に追加料金を支払う方法（ハイブリッドジャーナル）
  - ② 全論文がオープンアクセスである雑誌へ投稿し、論文投稿料を支払う方法（オープンアクセスジャーナル）
4. 購読料と論文投稿料が二重払いとなっているという指摘がある

## 調査

1. 論文データベースから京大の研究者が発表したオープンアクセス論文を抽出し、論文投稿料を逆算→**年間 5000 万円**と推算（*EJ経費の約8%*）
2. 財会システムのデータから論文投稿料を抽出し、合計額の算出を検討→**把握不可**

## 課題・問題点

- ◆京都大学において、論文をオープンアクセスにするための論文投稿料は非常に高額
- ◆今後さらに増加することが予測される
- ◆若手研究者の研究成果公開に支障
- ◆財会システム上では、論文投稿料は「雑費－雑役務費」に仕分け
- ◆雑役務費には論文投稿料以外も含むため、論文投稿料のみの抽出は不可能
- ◆摘要欄に記載される論文情報（掲載誌名など）は記述が統一されていない
- ◆論文投稿料の総額を把握しないと、出版社との価格交渉が不利になるおそれ

## 提案

論文投稿料の摘要欄の記述方式を**全学で統一**する

Q&A に提示

## 具体例

学内統一記述様式

論文投稿料 [研究者名], [ジャーナル名], [出版社]

### 摘要

Journalの印刷  
Journal投稿料の請求  
MRS Journal 39 論文投稿料(別刷)2  
Polymer Journal 別刷の購入  
応用物理学会 Japanese Journal o

改善

論文投稿料 京大太郎, 電気学会雑誌, 電気学会  
論文投稿料 T. Yoshida, Japanese Journal of Applied Physics, 応用物理学会  
論文投稿料 H. Katsura, Nature Communications, Nature Publishing Group

## 目的

京都大学が出版社に支払っている論文投稿料の**総額を把握**し、出版社との価格交渉の際の根拠とする

平成 28 年 3 月 15 日

各（共通）事務部・部局 担当掛長 殿

附属図書館総務課経理掛長  
今井 政敏

論文投稿料の支出に伴う財務会計システム「摘要欄」の入力について（通知）

標記のことについて、契約 Q&A Q-11 により論文投稿料は勘定科目を雑費、補助科目を雑役務費として扱うことになっておりますが、下記の要領で財務会計システムの「摘要欄」への基本的な記入フォーマットを設定することとしたので、ご理解の上ご協力願います。

本件は、本学が支出する論文投稿料の額を正確に把握し、雑誌購読に係る出版社との価格交渉の際の根拠とすることを目的としています。

このことについて、別紙のとおり Q&A を作成しましたので、ご参照ください

#### 記

論文投稿料を支出する場合、摘要欄への記入は以下のフォーマットに定める情報を記入することとする。ジャーナル名および出版社（取引先）の記入は請求書や Invoice のとおりとし、略語であっても構わない。

フォーマット：“論文投稿料 [ジャーナル名], [出版社（取引先）]”
-------------------------------------

#### 記入例

論文投稿料 Nature Communications, Nature Publishing Group

論文投稿料 Nat. Commun., NPG

立替払の場合も同様とし、「出版社（取引先）」には、立替払を行った研究者ではなく、研究者が支払った相手方となる出版社を記載する。

以上



## 論文投稿料 Q&A

No.	項目	ページ
<a href="#">Q-1</a>	どのようなものが「論文投稿料」として該当するのか	P1
<a href="#">Q-2</a>	何故論文投稿料の扱いを定めるのか	P1
<a href="#">Q-3</a>	論文投稿料の処理はどのように行うのか	P2

### Q-1

#### どのようなものが「論文投稿料」として該当するのか

論文投稿料とは、論文の投稿に関する費用全般を指し、主として以下の内容を含む。

- ①論文投稿や掲載の対価として出版社に支払う、狭義の「論文投稿料・掲載料」
- ②論文をオープンアクセスにする目的で支払う「APC (Article Processing Charge)」
- ③論文中にカラーの図版を含む場合に支払う「カラーチャージ」などの付随的な費用

### Q-2

#### 何故論文投稿料の扱いを定める必要があるのか

##### (1) 趣旨

研究成果の公開が社会から強く要請される現代において、論文のオープンアクセス化は、その有力な手段の一つである。しかし、出版社のサイトで論文をオープンアクセスにする場合には、料金を支払う必要がある場合がある。特に、通常オープンアクセスではない雑誌に掲載した論文をオープンアクセスにする際に支払う投稿料は、京都大学が支払っている購読料との二重払いになっているのではないかと、という指摘が存在する。

京都大学図書館機構では、この実態を把握するため、論文データベースから京都大学の研究者が発表したオープンアクセス論文を抽出し、その論文投稿料（Q-1 の②に該当するもの）を逆算した。

この調査により、京都大学は 2013 年に 5000 万円、2014 年に 6700 万円を支払っていることが推算された。一方で、データベースの情報は限られたものであるため、京都大学が実際に支払っている金額とは異なるという限界が想定された。

以上のことから、京都大学が実際に出版社へ支払っている金額を把握するため、財務会計システムから論文投稿料に当たる金額を抽出できるようにする必要がある。

## (2) 目的

京都大学が出版社に支払っている論文投稿料の総額を把握し、出版社との価格交渉の際の根拠とすることを目的とする。

### Q-3

#### 論文投稿料の処理はどのように行うのか

論文投稿料は勘定科目「雑費」、補助科目「雑役務費」として扱う。(契約 Q&A Q-11)

この点を変更せず、「摘要欄」へ以下のフォーマットに定める情報を必ず記入することとする。記入は請求書や Invoice の通りにし、略語であっても構わない。

“論文投稿料 [ジャーナル名], [出版社 (取引先)]”

例

論文投稿料 Nature Communications, Nature Publishing Group

論文投稿料 Nat. Commun., NPG

どちらの表記でも可。

立替払の場合も同様とし、「出版社 (取引先)」には、立替払を行った研究者ではなく、研究者が支払った相手方となる出版社を記載する。

## 4. 学内研究者へのインタビューによるオープンアクセスに関する意識調査

### 1. 目的

学内での公費を使用した APC 支払の実態を把握するため、APC を支払う背景について、2014 年度にオープンアクセスジャーナルに論文を掲載した学内の教員にインタビューを行った。APC 支払の実態を知ることによって、APC 支払の全学的な把握、費用援助やディスカウント情報の提供方法について検討する一助になると考えられる。

### 2. 調査内容

インタビューにあたっては、任意の教員にアポイントをとり、返答のあった 19 名の教員に対して、下記の要領でインタビューを実施した(一部メールでの回答を含む)。インタビューの質問に関しては、APC に限定せず、オープンアクセスについての研究者の考えを幅広く知ることのできる質問を設定した。また、インタビューの事前に質問書(参考資料 5)を研究者にメールで送付し、インタビュー担当の図書館職員間では手引書(参考資料 4)を共有した。

インタビュー対象者：学内の任意の教員 19 名

期間：2016 年 1 月下旬から 2 月中旬まで

場所：教員の研究室等

方式：主に教員と図書館員(2 名 1 組)との対面方式

### 3. 調査結果

調査結果の詳細は資料 4-1 に記す。教員の専門分野や教員個人の考え方によって様々な回答が得られた。例えば APC が電子ジャーナル購読料との重複費用と見なすかどうかについては、「問題である／研究内容をオープンにするための費用と考える／論文情報の費用を本来誰が負担するのか考える時期／意識していなかった」等、多様な意見があった。以下、主に得られた意見を列挙する。インタビューで得られた回答の詳細な分析については別の機会を設ける予定である。

- ・ オープンアクセスかどうかで論文投稿する雑誌を決めることはほぼなく、インパクトファクターや研究分野との適合性、雑誌とのつながり(エディターの経験、会員)などで判断している
- ・ 論文をオープンアクセスにすることで、当該雑誌を契約していない所属機関の研究者など、幅広い購読を期待することができる
- ・ オープンアクセス費用のディスカウントについて図書館は現在より効果的な広報を考えられる可能性がある

NO	分野	1.論文の投稿について	2.オープンアクセスについて					3.APCについて			
		(1)なぜ今回は、当該雑誌に投稿されたのですか?投稿する雑誌を選ぶ判断基準についてご教示ください。	(1)自論文をオープンアクセスにするメリットは何だと思われますか?	(2)オープンアクセスにすることに、何か効果を感じたことはありますか? また、それは解消されましたか?	(3)オープンアクセスにしたことで、何か効果を感じたことはあったでしょうか?	(4)自論文について今後もオープンアクセスにされるご希望はありますか? 有料であってもオープンアクセスにしたいと思いますか?	(5)公的研究資金を受けた論文はオープンアクセスにするという動きがありますが、どう思われますか?	(1)今回のAPC費用金額は、適当だと思われますか?	(2)APC費用を支払われるにあたり、どのくらいだと躊躇されますか?	(3)今回お支払された予算を教えていただけますか?	(4)それ以外の予算で支払うこともありますか?
1	医歯薬学	・論文のグレード・内容から一番合っていたから。 ・ジャーナルの方針に論文が合っていたから。 ・今回投稿した雑誌はファーストチョイスではなかった。 ・APCがあるとかないとかは考えていない。 ・OAになっているかどうかも考えていない。	・普及しやすい、引用されやすいというメリットはある。	・OAのチョイスができるというジャーナルに投稿したこともあったが、費用的に厳しかったので選択しなかった。	・今のところない。むしろ購読しないといけないジャーナルに投稿した方が「リプリントを読みたい。」という問い合わせがくる。	・皆が読むような良い論文の投稿先は、どこで大学でも購読しているようなジャーナルなので(特にOAにするという希望はない)。Natureやその姉妹誌など。 ・ポジティブな効果を感じたことがないので、有料でOAのチョイスをすることは考えていない。	・社会に発信するのは良いことなので、是非やるべきだ。	・10万円程度だったら払う。 ・予算を申請する際、「その他」の項目で投稿料10万円くらいはとっておく。英文校正の価格も入れている。	・20万円以上。	・科研費が共同研究費。	
2	医歯薬学	・OA誌かどうかは判断基準にない。 ・たくさんの人に読んでもらえるジャーナル、IFが高いジャーナルを選んでいる。 ・論文の内容がジャーナルに合っているかどうかを考える。 ・OA誌にした方が読者の負担が少ないのでより多くの読者が獲得できるという考え方もあると思うが、投稿の基準として気にしたことはない。	・自論文をどこからでも旅先でも読める。過去に書いた論文について確認したい場合に便利。	・全く懸念したことはない。	・どれをOAにしたかを分かっていないので、OAの効果を感じたことはない。 ・少なくとも、OAにしてもらって良かった、という連絡をもらったことはない。	(質問していないが、ここまでの回答により、特にご希望はないかと思われる。)	・論文はアクセプトされないと意味がないので、(OAが)推奨されたからといって、OA誌に投稿するというわけにはいかない。 ・途中のプロセスでお金も時間もかかるので、(OAについては)考えない方がコストパフォーマンスとして良いのではないか。 ・推奨されているが、絶対するようには言われていないのでまあよいかと思う。	・妥当だとは思わない。OAに限らず出版にかかる費用が高額で、個人でできるレベルでないのはおかしい。 ・基本的には研究は公共財で、査読も無償でしているし、皆の知識がもっと安くシェアされるべき。技術が発展してそれが可能になっているのに、妙にお金が発生するのはどうかと思う。	・Nature Communicationsのように高いのは、「出版を買っている。」感じがしてどうかと思う。 ・10万円を超えるとおかしいと思う。自分でpdfを作ってばらまける時代なのはどうしてそんなに取るのか。	・その研究を主体にしている経費。 ・複数の研究費を持っている時は、ひとつに決まらないこともあるが、主に研究に関係する研究費で払う。	・年度末、研究費から払えない時に校費(運営費)で払う。
3	医歯薬学	・IF、読者層、どのような論文が掲載されているかで判断。細かく言えば誰がeditorか等。 ・研究内容が競争状態の場合、出版までのスピードも重要。 ・投稿料のことはあまり考えていない。投稿料がかかることは当たり前になっている。 ・OA論文は増えていて、投稿料は広告料・宣伝費のようなもの。広告であれば、例えばNatureであれば30万円払っても良いかな、と思う。	・読者層が広がる。特に新興国の研究者。 ・雑誌を購読していない研究者にも読んでもらうことができる。 ・著作権が著者に残るので二次利用しやすい。	(雑誌編集の立場で) ・雑誌をOA化した立場では、投稿料を支払えない人が出るのでは、という懸念があった。しかし、購読でも費用がかかるので、発表者が支払うのが正當だろうと判断した。	(雑誌編集の立場で) ・雑誌のOA化後1年なので、引用状況等はまだ不明。 ・知らない研究者とメールでのやり取りが生ずるようになった。 ・編集過程のスピードが速くなった。	・OAの方向に向かわざるを得ないのではないか。 ・PPVは高い。	・OAの方向に向かわざるを得ないのではないか。		・10万円くらいが適当か? ・トップジャーナルであれば10万円以上でも良い。	・科研費(クレジット立替)。	・寄付金など、その都度判断。
4	医歯薬学	・研究分野との適合性。 ・所属研究室による本誌創刊への関与。	・より多くの研究者に読んでもらえること。	・今回はパウチャーを使用したということも有り、特になし。	・引用文献の筆者から、ResearchGateを通じて、引用を感謝する内容の問い合わせがあった。	・重要な研究成果の場合は、有料であっても希望する。	・資金面でのサポートと一体で考えるべき。 日本の雑誌に発表する場合は投稿料を免除すれば、日本の雑誌のIFを上げることに繋がるかもしれない。	・見当が付かない。	・前述のとおりAPCの適当な費用については見当がつかないが、資金を管理する立場から、10万円を超えるようだ躊躇すると思う。	・RSCパウチャー使用。	・使用制限の少ない研究費で支払うと思う。 ・所属研究室での配分経費は、試薬の購入等に使用できない制限がある。そのため、この予算を用いて投稿料を支払うことができる。
5	医歯薬学	・OAであること、出版までが早いことから投稿先を選んだ。これらを判断基準としている。 ・Nature、Cell、Science等のトップジャーナルへの投稿は、論文の種類によると思う。例えば学術的な意義が高い論文の場合は、トップジャーナルへの投稿を狙ったりするのではないか。	・興味のある人が読むことができる。 ・自分自身、お金を払って読むことは少ないので。	・特にない。	・読んでいる人は多くなっていると思う。	・オプションでOA費を払うことも含めて、OAとする方が良いと思う。	・今後はそのような流れになるのではないか。 ・以前ほど、お金を出して読むのではなくなると思う。	・今回は10〜15万円くらいだった。	・50〜60万円となると躊躇する。 ・30万円くらいだと、どうしようかと考える。それ以上はきつい。	・科研費か公費。ちょっと覚えていない。	・基本的には研究資金から支払う。
6	医歯薬学	・自分の論文が雑誌に合っているかどうかが第一基準。 ・研究分野のトップジャーナルがOAだから。	・本文を簡単にみられるので、人に業績を伝える際、「Webに載っている。」と伝えられる。 ・OAのほうが見てもらえている感じはする。	・お金が高いのは嫌だけど、オープンになることについては問題ない。 ・OA誌に対しては「お金を払えば載せてもらえる雑誌」という認識を持っている研究者もいる。 ・分野によって違うのでは。癌や循環器など、トップジャーナルがはっきりしていて、ジャーナルに対して読者がしつかりいる分野では、わざわざお金をかけてOAにするのはなぜ?という意識もあるかもしれない。自分の分野ではむしろ「なんで読者がお金を払うのか。」という認識。	・オープンにしている方が問い合わせがくるように思う。	・金額の問題。\$1000程度ならOAを選んでも良いが、\$3000だと他のことに使いたい。	・もう決まったのでは?方向性としてはこうなっていくのだろうと思っている。アメリカ(NIH)では当然。 ・OAにするかしなかで引用がどう変わるかなど関心がある。	・今回は\$2,000。 ・\$1,000〜3,000が相場という認識。	・\$3,000を超えると躊躇する。実際OAのオプションを選べるジャーナルに投稿した際、それくらいだったのがオプションは選んでいない。	・科研費が運営費。	・研究費を貰っているあいだに出版までいけるとは限らない。同じようなプロジェクトを続けて申請していればそちらの経費で、ということも考えられるが、本来はおかしな話。
7	医歯薬学	・雑誌の専門領域と、論文の領域の合致。 ・雑誌のレベル(権威)と論文のレベルの合致。 ・IFは一つの基準ではない。 ・分野のトップジャーナルは、JACS, Nat. Chem., Chem. Sci., Angewandte Chemie など。	・誰にでも読んでもらえること。	・通常のRSCのジャーナルへの投稿と同じように考えていたので、特に懸念はなかった。 ・クリエイティブコモンズライセンスをどちらにすれば良いのか、よく分からなかった。	・特にない。	・これまで研究室でOA論文を出したことがないため、あまり考えたことがない。 ・\$1600は高いと思う。 ・1.2万円くらいなら可。	・当然と言えば当然。 ・NIHの方針でNCBIのサイトから論文が読めるのはリーズナブルと言える。 ・それによって民間出版社が立ち行かなくなり、購読料やPPV料金が上がるようなことがあれば困る。バランスが気になる。 ・フリーでダウンロードできるメリットはある。	・今回支払っていないし、これまでも払っていないのでわからない。 ・今回は0円なので適当。 ・通常10万円以上が多いと思うが、この価格は適当ではないと考える。	・数万円程度ならあり得る。 ・Nature CommunicationsやScientific Reportsのようにブランドがあるなら支払うことはあり得るかもしれない。 ・どれくらい読まれているかが分かったら良いと思う。		
8	生物学	・この雑誌に掲載した他の論文も含めて全て招待論文。 ・このジャーナルに初めて投稿する際、信頼できる先生の論文が掲載されていたことを判断基準にした。 ・同分野の研究者だけに読んでもらいたい場合はピンポイントの学会誌、もう少し広い範囲の人に読んでもらいたい場合はIFの高い雑誌を検討することもある。	・色々な人に読んでもらえる、購読していない大学所属研究者にも。	・版權が気になる。PDFをくださいという研究者にPDFをそのまま送付して良いかライセンス上の懸念があるため、リプリントを配布している。	・会員であれば追加料金を支払わなくてもOAになる学会誌もある。 ・エンバゴ1年のジャーナルの場合、OAオプションは選ばない。	・予算次第。研究費を圧迫する高い掲載料が悩みの種。例えば科研費を200万円もらって投稿料に30万円は厳しい。英文校正も、何度かやり取りをすると10万円くらいかかる。 ・ヨーロッパでは高い掲載料を所属機関が負担するという制度がある。	・高いが雑誌による。植物生理学分野の雑誌はもともと投稿料が高い。カラーチャージ、ページチャージなど含めるとOAでなくても数十万することがある。	・論文の質による。	・科研費で20万円程度。	・なし。	
9	化学	・IFやブランドで決める。同じブランドでよりIFの高い雑誌に採用されなかった場合に査読を引き継いで投稿できる(トランスファー)。どの出版社もそういった流れをつくるためにラインナップをそろえている。 ・学生もIFにはセンシティブ。 ・学会で発表時に出版社から投稿をオファーされることもある。 ・有名な出版社では、偏差値のようにIFの高いものから低いものまでカスケード状に雑誌を用意して、査読結果をトランスファーし、どこかに論文が掲載できるように、他社の雑誌に取られないように囲い込んでいる。	・Citationは増える。 ・学会会場でも購読の有無に関わらずすぐ見られる。自分の論文の場合、その場で反応もらえる。	・OAについて懸念はない。 ・逆にオープンではないもののライセンスに懸念がある。 ・例えば実験器具メーカーに成果として論文をShareした時、広告など商業目的で利用されないとも限らない。	・1-(1)参照	・OAを理由に投稿先を選んではいない。場合による。 ・高IF誌で投稿から掲載まで1年くらいかかるものがある。OA誌ならもっと速い。 ・とにかく一番を確保するために、論文以前にまず学会で発表することが重要。	・姿勢は評価するが、義務化は早い。 ・OAはいろいろな選択肢のうちの一つ。 ・学振や国レベルでEJを契約するというところの方が必要ではないか。	・今回のジャーナルは適当。カラーチャージなどの追加料金ははない。 ・Nature Communicationsはともとも高い。 ・Wileyはカラーチャージが高い。	・金額に上限はなく、費用対効果を重視。 ・例えば装置や人にとでもお金がかかっている研究についてインパクトのないジャーナルに投稿しても意味がない。インパクトの高いジャーナルであればAPCが高額でもよい。	・ジャーナル2: 日本学術振興会出資の大型予算。	・大型の予算が付けばあり得るかもしれない。
10	化学	・ジャーナル1(OA・投稿料無料): 普段は投稿しない雑誌だが、特集号の執筆依頼を受けた。IFが2〜3程度あり、公開の手段として良いと判断した。また出版社の信頼性も高いと判断した。 ・ジャーナル2(ハイブリッド): 当初別誌に投稿していたが、出版社から本ジャーナルへの投稿を推薦された。オープンにしたのは、その時同誌に掲載された論文を見ると、それなりに予算のある人はオープンにしていたため。 ・投稿の判断基準はIFや出版社の信頼性。OA誌でIFが付いていない雑誌は避ける。	・よくわからない。 ・Wiley, Elsevier, Thiemeなどのジャーナルに掲載していても途上国などの研究者からPDFを送って欲しいと連絡がある。	・同程度のIFを持つトップジャーナルがある中で、ブランド志向の雑誌に掲載しても途上国などの研究者を支払いオープン化することで、出版社の商業戦略に乗せられたように研究者コミュニティ内で思われることを心配した。あまりに高額な掲載料は人には言いにくい。	・OA誌を率先して選ぶことはないと思う。 ・出したいと思うOA誌は今回の投稿誌くらい。しかし高額なAPCが必須な場合は別の雑誌に投稿するかもしれない。その時の予算次第。	・動きがあることは知らなかった。 ・OA誌の投稿料を科研費で支払うなら、科研費申請書の予算計画に盛り込む必要があるだろう。	・数万円程度なら払えるが、数十万円は無理。どちらにしても予算次第。		・ジャーナル2: 日本学術振興会出資の大型予算。		



NO	分野	1.論文の投稿について	2.オープンアクセスについて					3.APCについて			
		(1)なぜ今回は、当該雑誌に投稿されたのですか?投稿する雑誌を選ぶ判断基準についてご教示ください。	(1)自論文をオープンアクセスにするメリットは何だと思いますか?	(2)オープンアクセスにすることについて、事前に懸念していたことはありますか? また、それは解消されましたか?	(3)オープンアクセスにしたことで、何か効果を感じたことはあったでしょうか?	(4)自論文について今後もオープンアクセスにされるご希望はありますか? 有料であってもオープンアクセスにしたいと思いますか?	(5)公的研究資金を受けた論文はオープンアクセスにするという動きがありますが、どう思われますか?	(1)今回のAPC費用金額は、適当だと思われますか?	(2)APC費用を支払われるにあたり、どのくらいだと躊躇されますか?	(3)今回お支払された予算を教えていただけますか?	(4)それ以外の予算で支払うこともありますか?
11	化学	・研究分野において権威のある出版社のため。 ・論文内容に合う雑誌に投稿している。 ・特定の出版社に偏ると、読者層が偏るのである程度投稿先を散らしている。今回の投稿先のほか、2、3よく投稿する出版社がある。現在は各種論文データベースが整備されているので見落としは少なくなっているだろうが、以前からの心付けを継続している。 ・投稿先を選ぶ際に、OAであることや、パウチャーがあることは基準とはしない。		・偶然かもしれないが、その時期から出版社からの論文・書籍執筆依頼に関する スпамメールが増加した。	・体感として気付いたことはない。 ・KURENAIのように論文のDL数を出版社も教えてくれば、モチベーションにつながる。	・パウチャー使用により無料になる場合は検討するが、有料であればしない。	・NIHの事例などは知っている。	・\$1,600(約30万円)は高すぎると感じる。パウチャーがなければオープンになかった。	・2〜3万円程度ならともかく、10万円を超えるお金を払ってまでオープンにはしない。 ・研究分野のジャーナルでは投稿料・掲載料は無いことが多い。ただしカラーチャージ・別刷・表紙への掲載などに費用がかかることはある。 ・日本のとある学会で、別刷の作成を強制されたことがある。	・パウチャーにより無料。	・パウチャーにより無料。
12	農学	・最初別の雑誌に投稿したがRejectされ、姉妹紙である当該誌への投稿を推薦されたから。	・本学以外の研究者にも読んでもらえる。	・リプリントの配布がないというのはマイナス。 ・教育効果言えば、目的の論文の隣に掲載されている論文を偶然見る機会が学生にとって減っている。	・この論文は中国の新聞・雑誌にも掲載され、比較的话题になったが、それはOAだからなのか、論文の内容によるものなのかわからない。 ・マスコミが引用に使いやすいとなったと思われる。 ・OAにすることで、グラントを獲得しやすくなったり、社会的説明責任を果たすことができたりすると思う。	・OAはたまたま。OAだけを投稿先選択の理由にしていない。	・OAにお金がかかると、全体として研究費を圧迫するのではという懸念がある。 ・雑誌にはそれぞれ性質がある。なんでもかんでもオープンが良いわけではない。社会受けしやすい研究ばかりになってしまうのでは。 ・「上品な」(コマージリズムに毒されていない)雑誌・論文はサイエンスにとって重要。	・若干高額だと思う。 ・しかし写真・カラーページが多い論文は、通常のカラーチャージだけで今回のAPCを超えることもあるので、その意味では妥当な金額とも言える。 ・論文投稿料では選んでいない。 ・OA誌で論文が増えればIFが下がるという傾向。 ・レビューするのは多くの場合、著者とは異なる国の研究者となり、特定の国の研究者に負担がかかることもある。 ・OA誌は紙面制約がないのはメリットであり、デメリットである。科学的根拠が正しければ、掲載しなさいという出版社からの指導がある雑誌もあり、論文掲載をリジェクトするのは大変。	・50万円が目安。30万円もしくはカラー写真が多い論文だと仕方がない。 ・レビューの前にお金を払わなければならない雑誌もある。二重投稿・大量投稿を防ぐ意味では良い(1万円程度、5年前くらいから)。	・科研費。	・通常は科研費、年度末ギリギリなら運営費。
13	工学	・IFが付いている雑誌で、IF値で難易度を見て、内容を照らし合わせて決めた。 ・投稿の際、OAにはこだわっていない。 ・投稿先として考える雑誌数は、おおよそ20タイトルかそれ以上。	・EJ費の高騰で、多くを購読していない機関の研究者にも読んでもらうことができることはメリット。 ・評価の高い雑誌への投稿とOA誌への投稿は、どちらも読まれやすくなることなので、幅広く読まれるためという広い意味では同じ目的とも考えられる。 ・手法が違ふことともいえるので、OAについても考えなければいけないと思う。 ・しかし、OA誌を重視するようになるとは考えにくい。	・特にない。	・あまりない。 ・KURENAIにも登録しているのですが、OAの効果はわからない。 ・今回は論文の内容から広い分野を取扱うジャーナルに投稿した。より専門的な論文で専門誌であれば、よりDLやCitationされるメリットが出るかもしれない。	・これは、と思う論文であれば、オープンにしたいと思うかもしれない。	・道理はあると思う。 ・全てとなると予算の範囲で投稿と支出を考えないといけないため、良いことかどうか分からない。 ・OA化せよという枠をはめられたうえで投稿先を考えると、とするとジャーナルのレベルを落としたりすることにもなりかねず、研究の評価にも関わってくる。足かせになる可能性もあるかもしれない。	・\$1,200で約10万円強だったが、とりわけ高いという認識はない。	・\$2,000くらいだったら躊躇するかな、というイメージ。今のレートで25万円くらい。	・運営費。	・科研費や寄付金で払うこともある。 ・科研費等、研究期間が決まっている場合はその期間中に支払わなければならない。投稿・出版は研究後なのでその時に払うことのできる予算で支払う。そのため、運営費で払うことが多い。
14	工学	・国際会議の招待講演論文を公開することを出版社から依頼された。 ・当該分野の専門家がが多く、専門性と信頼性の高い雑誌であること。そのような雑誌はピアレビューの質が良い。 ・雑誌のネームバリューがあっても査読者に専門家がいないとダメ。 ・自分の論文に関しては、雑誌のIFより論文のCitationを見ている。 ・投稿やVolume editorの依頼、volume editingのproposal に関する意見照会など、様々なinvitationがよくある。	・論文のReadabilityやCitationが向上する。 ・ResearchGateのCitationが上がることは確か。 ・特に新興国の研究者が見る。	・何もない。 ・かつての所属機関が昔の論文をアップしたが、日本語の論文でも図や数式は理解できるから、アクセスされている。 ・ただし、未査読の論文等もあり、問題もある。	・本論文以外の関連する論文のReadabilityやCitationが向上したように思う。	・DLが無料になるのであれば、実施したい気持ちはある。 ・自分の分野では、投稿料は無料でDLは有料ということが多い。	・公的資金という区分では片付かない。研究テーマ次第でオープンにはしていないもの、できないものもある。 ・科学技術分野では機密事項に係るものもあり、全てオープンにすれば良いというものでもない。	・\$1,250は昔の投稿料と比べて少し高めであるが、許容範囲ぎりぎりと考える。	・掲載料や別刷り代等すべてを含めて15万円以上の場合考える。	・招待論文のため無料。	・不明。
15	複合領域	・もともと同ブランドの高IF誌に投稿したが、査読時に追加実験を求められた。1年かけたが、その実験は不可能であることが証明された。 ・出版社からOA誌であれば査読を引き継いで掲載可能(トランスファー)というオファーがあった。そのジャーナルでもIFが悪くなったこともあり、オファーを受け入れた。	・読む人が増える。 ・Citationが上がる。 ・特に今回の論文は「Resource Paper」で、より多くの人に読まれることが望ましいタイプのものだった。							・研究費。	・なし。
16	複合領域	・トップジャーナルである。 ・IFは業界によって違うが、工学なら2以上あればトップジャーナル。 ・IEEE Transactionsは工学系ではトップジャーナルと考えられる。 ・査読の速さ。投稿から掲載まで半年くらい。各論文に投稿日から掲載日まで載っているの、それで推測する。 ・同領域の研究者ではPLOS ONEのような何でもアリな雑誌に載せる人も多い。他には、今回のIEEE TBMEと同じSociety(EMBS: Engineering in Medicine & Biology Society)が出している姉妹誌など。 ・あまりに高ければ話が別だが、掲載料やAPCが安いからと言う理由で雑誌を選ぶことはない。	・IEEEのジャーナルは、工学系の大学なら読めるが、医学系の大学では購読していないことも多い。学際領域なので医学・工学どちらの研究者もアクセスできるようにOAにした。 ・学際領域を研究しているOAはメリットがある。	・特にない。あるとすれば、唯一お金の問題。	・ResearchGateで自分の論文を誰が読んでいるかわかるようになっている。工学系の研究者だけでなく医学系研究者・病院の医師も読んでいることが分かった。想定したメリットどおりとなっていることが分かった。	・学際的な研究については、そう思う。 ・分野が狭い研究は、その分野の研究者が読めればいいので、お金を出してOAにする必要はあまり感じられない。	・狭い分野の研究でまでOAにする意味があるかは、費用対効果の面から疑問。 ・研究者の側に、どれだけ他分野の人にも読んでもらいたいという意識があるかどうかが大切。 ・科研費の若手Bの金額は300万円程度。そのうち、50万円近くをOAのために払えるだろうか。それなら、実験機材などを買った方が良い。 ・この動きは知らなかった。	・Elsevierの雑誌でAPCが\$3,000くらいしているのを見ていて、それが標準だと考えていたので、\$1,600は安く感じる。ただ、どちらにしても金額の根拠が明らかでないので、適当かどうかは判断できない。	・今回の\$1,600は受け入れられる範囲ではある。 ・\$3,000、円価40万を超えるようだと難しい。これだけあれば海外出張できる。	・科研費と公益財団法人の研究助成金。 ・科研費で掲載費を支払い、APCを財団の経費で支払う予定。 ・支払方法はクレジットカードでの立替払い。	・これまでOAにした論文は、研究室の教授が支払っており、予算の詳細は把握していない。
17	社会科学	・基準としては、OA誌は玉石混交なので、IFなどの指標や編集委員のメンバー等を見て選んでいる。 ・他にはSageのOA誌が教員の間で話題になっており注目している。 ・トップジャーナルへ投稿してリジェクトされた時に、昔は中小規模の雑誌に投稿していたが、その代わりにOA誌へ投稿するようになっている。	・学会誌などの非OA誌は、契約していない大学では読むことができず、読者が限られる。特に隣接分野の研究者に読んでもらえない。 ・ResearchGateなどで検索して論文の存在を把握しても、読めないジャーナルだとそこで詰まってしまう。 ・OAだとそれが解消される。	・評価が玉石混交なので、ギャングブルのようだと感じていた。学会誌と違って学会が背景に無いので、評判のみで判断するしかない。 ・この懸念は解消された。今回投稿したOA誌や、主要紙では、ちゃんとした研究をしている人が投稿していることが分かった。	・今回の投稿誌は各論文のページでDL数が分かる。そのDL数が多い。 ・また、他分野の研究者から論文の内容についてメールが届いた。	・ケースバイケースだが、予算が許せば今後もOA誌に投稿する。共著者間で分担することができれば負担は軽くなる。単著で、一人で何十万も支払うのは厳しい。		・高いと思う。仕方がないかもしれない。 ・下と良いのだが。	・25万円(\$2,000ほど)を超えると躊躇する。	・科研費。インボイスが届くので海外送金している。	・今のところ科研費のみ。 ・今後JSTの予算などでも払うことがあるかもしれない。
18	社会科学	・オーディエンスの広さ: 今回の論文テーマは、かなり多くの関連他分野の研究者、そして一般の人にも興味を持ってもらえる・引用してもらえるポテンシャルがあると考えていた。よって、OA誌を選んだ。 ・査読と公開の速さ: 今回の投稿誌は比較的早い。研究テーマがいわゆるhot topicで、できるだけ早く公開し、議論・反応を受けたかった。また、理論的に近い研究をしている研究者が他国にいたため、先に類似研究を公表され、相対的な新規性が失われることのないように、時間がかかる雑誌は避けたかった。 ・研究内容のフィット: 理論的・学術的に今回のジャーナルが最も合致していた。 ・研究内容の質: 研究内容の質が高ければ、多くの人に読んでもらい、参照・引用してもらえる。逆に、質が低ければ、OA誌はより読んでももらえない可能性がある。 ・査読者の質: 今回のジャーナルは、査読者・編集者の名前が論文内に掲載されるため、査読者・編集者もより適切に作業を行っている(ように見える)。そして同じ雑誌の他の類似論文がどういった査読者・編集者に扱われているかを見ることで、自分の論文がどういった査読者・編集者に回るか予測できる。実際に査読の質は満足できるものであった。 ・掲載費用(以下参照)。 ・雑誌の研究者間での評判: 今回のOA誌は分野内での評価が概して高い。 ・雑誌のIF(これまでは雑誌単位のIFが重視されてきたが、近年は論文単位で評価が可能になったことにより、相対的にあまり気にする必要はないように感じる)。 ・論文掲載後のインパクトの追跡しやすさ: 今回のOA誌はかなり細かい統計情報を提供してくれる。 ・投稿先のバラエティ。	・より多くの人に論文を読んでもらえる。伝統的な雑誌の定期購読者だけでなく、該当分野の研究者、分野外の研究者、ひいては研究者以外の人たちにも目を通してもらえる。また、公的研究資金を用いているので、研究者以外の人にも読んでもらうべきでもある。 ・伝統的な雑誌よりも、平均して掲載までの時間が短い。	・OA自体には、特に懸念はなかった。しかし、OA誌の査読で、雑な査読者にあたってしまった場合(この可能性は、伝統的な高IFの雑誌に比べて相対的に高い気がする)。適切な審査してもらえない可能性は懸念していた。この論文においては非常に丁寧な査読であったため杞憂ではあった。	・OA投稿した雑誌をうまく公表することで、多くの研究者、研究者以外の方にも興味を持っていただき、コメントや感想をいただいた。 ・OA誌に投稿するという意志決定の際には、周囲の研究者と色々と議論した。	・状況によるが、希望はある。	・敗えてクローズドにする必要はないと思うので、オープンにすれば良いと思う。しかし、その論文をどの程度の人が実際に読むのか疑問。さらに、現状多くの論文は、特定の領域の研究者以外には分かりにくいように書かれているように感じる。	・何ををもって適当とするかは難しいが、高いと感じる。	・ある程度躊躇したが、それを上回るベネフィットがあったので実行した。	・日本学術振興会特別研究員研究奨励費。	・ある。



NO	分野			4.APCディスカウントオプションについて	5.ハイブリッドジャーナルとは、京大では既に購読料を支払っている雑誌で、学内構成員は全文閲覧可能です。学内における重複費用の支払いについては、どのようにお考えですか？	6.「京都大学オープンアクセス方針」はご存知ですか？ どのように思いますか？	
		(5)研究室の所属者、例えば自分の財源を持っていない大学院生等のAPCを研究室や先生の公費で負担することはありますか？	(6)APC費用を大学が支援(負担)する制度は必要だと思いますか？	(1)APCにはディスカウントオプション(割引)がある場合がありますが、今回の額は定価ですか/それとも割引された額ですか？割引の情報はどこで/どのタイミングで知りましたか？	(2)先生方にディスカウントオプションをお知らせする際、どのような周知方法が効果的だと思いますか？		
1	医歯薬学	・Corresponding Authorに教員が入っているなら、教員の研究費で支払う。	・あっても良いが、事務手続が面倒なら嬉しいくない。	・定価。	・ピラを作ったら。メールは読まない。	・あまり意識したことはない。	・義務化ならば従う。 ・異論はないが、手間が増えるのは面倒。簡略であれば協力する。 ・フローチャートなど案内を視覚的に簡略にしてほしい。文章が長いと読まない。
2	医歯薬学	・小さい研究室で、自分が主体か他の研究室の研究者の方が主体なのでそういうシチュエーションはない。	・研究費をたくさん集めている人はAPCで苦労することはない。 ・自分で負担するほうが個人的に楽。 ・(大学が支援する場合)間接経費みたいに研究費の何パーセントかとられるのではないかと思うので、そういう費用が増えない方が嬉しい。 ・団体交渉してAPCの額をものすごく下げることになり、トータルでコストが下がるのならいいが、メリットは感じない。 ・APCが全部キャッシュバックされるということならやってほしいが、そんなことはないし、(支援制度を設けることで)人件費などトータルなコストが高いなら、そうじゃないほうが気楽。	・あらかじめ割引情報を調べたりはしない。ジャーナルの選択にあたって、資本主義というか経済原理が働きすぎるのはどうかと思う。 ・科学はもっとフラットで良心に従ってするもので、バイアスやゆがみが入りそうな気がする。 ・あまり実験に費用がかかったりしない分野なので気にならないのかもしれない。	・学内ネットワークから投稿したらもれなくディスカウントされるというのが分かりやすい。 ・日本全体、大学全体として割引を使ってAPC費用を抑えようというのなら、あるサイトを通して投稿したらインセンティブとして25%研究費バックというようにすれば皆したがると思う。このボタンを押せば、あなたの研究費がいくら戻りますとあれば皆やりたがると思う。	・「購読の手間」と「読む人の便益」と「費用」を並べてどれがいいかを考えて一番いいオプションをとれば良い。そういうコストバランスの情報を出してもらえば図書館委員会で選ぶのではないか。(Elsevierは大量のEJがあり大変ですが？) ・購読側が団結してないから出版社の方がいばっている。 ・図書館コンソーシアムもあるだろうが、背後にいる研究者が岩盤のような意思統一された意見を出してないのが弱い。 ・お金を払う側であり科学を作っている側なので、今の状況はどうなのかと思う。 ・研究者は財布が傷まないと意見を言わない。図書館を水道のように思っている。本当に自分が払うという意識がない。	・知っている。 ・自分たちの分かったことを世界に発信したいと思っているので、義務化はOK。 ・しかし、面倒くさいのは嫌。どれくらい面倒なのかということが、方針を読んでも分からない。 ・出版社ポリシーをチェックするのがかかったらいい。OA賛成というボタンを押したら、チェックしなくてもあとは勝手にやってくれるというのならいいが、自分で気にしないといけないのは無駄だと思う。 ・そもそも登録の依頼があった論文のジャーナルのバージョンの呼称も出版社により様々なので何を提出するか不明。うちの分野はバージョンにより内容も変わらないので著者版で公開してよい。
3	医歯薬学	・Corresponding author が責任を持つ。 ・学生が支払うことは無い。	・医薬系はいらないかもしれない。 ・文系分野に対して、海外への情報発信力強化を支援した方が良くいのではないか。	・購読しているとAPCが安くなる、というのは筋が違う気がする。サブスクリプションの繋ぎ止めでは？ ・投稿誌を選ぶ際の魅力にはならない。	・どこかのサイトにまとめられていること。そこにあるということがわかれば良い。 ・メールはタイミングが合わないかと無視してしまう。 ・DL数やアクセス数の多いタイトルのトップ100について、投稿料に関する情報を提供する、とか。	・国の方針等含め、現在は変革期で、出版元も学会も試行錯誤している状況。 ・論文情報に対して誰が費用負担するのか、という本質のところに来ている。	・方針としてはこれで良いと思う。 ・今後、データアーカイブができて、それと適切にリンクできれば良い。 ・KURENAIへの登録依頼は、これまで見た覚えがない。協力する意思はあるが、共著の場合、許諾を得るための連絡を取ることが難しい。連絡先が分からない場合がある。
4	医歯薬学	・今までのところ、経験はない。	・あれば助かるが、何らかの基準は必要。 ・IF等いろいろな基準があると思うが、京大らしいものを用意して欲しいと期待する。	・パウチャーの情報は図書館からのメールで知った。	・今回の方法(メール通知)で十分だと思う。		・知りません。 ・KURENAIへ論文を登録することに、特に抵抗感などはない。
5	医歯薬学	・通常は、Supervisor(指導教員)が払う。 ・共著者としてCorresponding authorとなっている教員。	・支援してくれるならそれでも良いが、科研費から払えば良いのではないかと、と思う。 ・支援してもらえらならそれでもOK。	・図書館機構サイトの割引情報については知らない。	・メールか配布物ではないか。 ・メールであれば見ないことは無い。	・(説明された)状況はわかるが、どうすればよいのかまでは考えたことは無い。	・知らなかった。 ・広く読んでもらえるようになるので、良いのではないかと。 ・KURENAIへの登録は、これまでの依頼にも対応しているもので、既にやっていること、(という認識)。
6	医歯薬学	(論文を主に執筆しているのはFirst Authorか？ First Authorが院生の場合は、教員がCorrespondingになるのか？) ・ほぼそうだが、教員がSecondを希望する場合も。Corresponding Authorが投稿しなければならぬ雑誌もあって、院生の論文を教員が投稿手続しなければいけないのは現実的ではなく、場合による。 ・研究費を持っている人や金銭的な負担が可能なら(社会人院生など)は私費で払う。 ・教室が費用を支援しているところもあるが、そうでないところもある。 ・今後OA誌が増え、書けば書くほどお金がかかるというのはつらい。それを踏まえた上で予算申請していかないと。最近は投稿料を含めて申請するものが多そう。	・あればありがたい。しかし、契約していると投稿料が安くなるところもあるので、機関としてメンバーシップに加入するなどするのが良いやり方ではないかと思う。	・定価。	・機関として割引に加入して、執筆者が投稿したときに自分の所属を選べば安くなるようになれば良いのではないかと。	・自分は重複費用の問題意識は持っているほうだと思うが、周囲の研究者はそうでもない。 ・「読者」なんだから安くしてほしいと思う。あるいは査読したら安くするとか。	・出版社とのやりとりが面倒。どうした場合ならリポジトリに登録して良い、とわかりやすくなれば。 ・特にOA誌のリポジトリ登録はどうか、出版社の方針がはっきりしてなくてわかりづらい。 ・教授になると共著が増えてすべての業績を把握するのが難しい。リポジトリ登録はFirst Authorがやるしかない。院生・若手教員に告知するのが大事では。
7	医歯薬学	・院生が単独で著者になることは無く、教員が共同著者になるので、経費の支払いとして妥当と判断できれば、研究室の経費から支出することはあり得る。	・必要ない。 ・情報をPublishするだけなら、論文に投稿する以外にも方法がある。 学術領域によってPublishの仕方が違う以上、例えば自費出版のような出版や、大衆週刊誌に広告料を払って文章を載せるのと、どのように区別するのか。 ・大学は場を提供するのが良いと思う。KURENAIの質を上げ、その場にするのが良いのではないかと。	・図書室からのメールでパウチャーの存在を知った。	・所属する研究科では、図書室からの連絡はメールで来るので、メールが一番いいと思う。 ・紙のチラシは教員の目に入らないことがある。 ・図書館関係のウェブサイトでは、EJ、DBのリストや、Article Linkerは見る。 ・APCのディスカウント情報のページは見たことがない。	・APCを支払ったことがないので、あまり考えたことがない。 ・出版社にとって必要な経費なら仕方ないと思うが、何が妥当なのかは難しい。	・知っている。 ・情報公開や社会への還元という観点で必要と思う。 ・KURENAIへの登録はメールでの要請を受けて実施している。逆に言えば受け身で、積極的に登録することはしていないとも言える。 ・ACSのようなリポジトリへの登録が認められていない出版社の論文も登録が認められれば、KURENAIの質はさらに上がるだろう。
8	生物学	・研究室・論文責任者が払うのが当然で、院生だけで論文を発表することはない。	・賛成。英文校正の支援よりも良い制度。 ・英文校正支援は時期が決まっていたので使いにくかった。時期が決まっていなくても、この分野と英語に精通した研究者とのディスカッションを通して、英文校正してもらうのが理想の方法。 ・掲載料の支援の方が、掲載されることが確定しているという点でも英文校正支援より良いと思う。	・学会が母体のケースでは何回か審査員をすると割引のある雑誌もある。	・図書館からのメールは見ない。 ・教授会で研究担当理事に説明してもらえれば効果的だと思う。その際に簡単なちらしを作って、配布資料で教員に見てもらって、後日の問い合わせ先や参考情報がわかると良い。	・出版社の言われるままに支払っているもので、学会主導で学会誌から変えていくことが必要だと思う。	・知らなかったが、良い取り組みだと思う。 ・KURENAIへの登録にはできるだけ協力している。以前はDL数の報告もあったが、どれだけユーザがいるのか。KURENAIに掲載しているのはプレプリント版だが、ユーザが本当に見たいのは最終版ではないのか。 ・国内でOAのネットワークがあっても、国際的でないと意味がない。 ・学位論文に未発表データがある場合は現状、非公開としているが、doiを付けられると困る。雑誌に投稿するときに別論文と見てもらえずリジェクトされるのではという懸念がある。
9	化学	・学生の研究も教員が責任著者になるので、教員の研究費で支払う。	・審査に時間がかかるなら不要。論文出版のスピードが落ちないものなら可能。 ・大学の支援や出版社からの割引は、京都大学の教員がよく投稿する上位数%の雑誌に対してだけで良いので、それを対象に図書館や大学が交渉するということもできるのでは。	・今回は定価。 ・以前、あるジャーナルに投稿の際、免除の申請をして半額くらいにしてもらったことがある。また、投稿画面に購読者割引を申請する箇所があり、使ったことがある。	・投稿画面にあると良い。 ・割引と言っても、出版社から言ってくるような面白い話には裏があると注意している。研究者として高名になるほど、詐欺まがいのオファーが多くなる(実体のないorアカデミックでない学会・論文など)。	・問題だと考えている。	・知らなかった。 ・PubMedからリポジトリにリンクしている時に、リポジトリで論文を見ることはあるが、やはり出版社版を見ないと不安がある。 ・自分の論文のリポジトリ登録状況を把握していない。
10	化学	・学生の経費は教員の予算で支払うことが一般的。	・制度があればありがたい。 ・ハイブリッドジャーナルへ投稿した論文を敢えてOAにすることは、今の状態では選択肢にならない。	・ジャーナル1: 招待論文のため対象外。 ・ジャーナル2: 定価。	・教員へはメールが良いと思う。定期的にアナウンスをして、教員の頭にインプットするのが良いのではないかと。	・今は過渡期なので、良く調べれば無駄なお金を払っている部分も多いと思う。 ・全部OAになったら、それはそれで、APCの金額についても教員が考えないといけない。	・OA方針は知らなかった。 ・KURENAIへの登録はメールが届けば指示どおりになっている。 ・KURENAIへ登録することに抵抗はない。

NO	分野			4.APCディスカウントオプションについて	5.ハイブリッドジャーナルとは、京大では既に購読料を支払っている雑誌で、学内構成員は全文閲覧可能です。学内における重複費用の支払いについては、どのようにお考えですか？	6.「京都大学オープンアクセス方針」はご存知ですか？ どのように思いますか？	
		(5)研究室の所属者、例えば自分の財源を持っていない大学院生等のAPCを研究室や先生の公費で負担することはありますか？	(6)APC費用を大学が支援(負担)する制度は必要だと思いますか？	(1)APCにはディスカウントオプション(割引)がある場合がありますが、今回の額は定価ですか/それとも割引された額ですか？割引の情報はどこで/どのタイミングで知りましたか？	(2)先生方にディスカウントオプションをお知らせする際、どのような周知方法が効果的だと思いますか？		
11	化学	・大学院生は教員が持っているテーマをやる人が多いので、院生が独立して論文を書くことはない。そのためコレスポンディングオーサーとなる教員の意向次第と言える。	・全額負担してくれるなら使う。先ほども言ったとおり、支払額が10万円を超えると難しい。現状のAPCの金額では、9割ほどは支援していただけないと、難しい。	・パウチャーを利用した。情報は図書室からメールを受け取って知った。	・メールで、件名に分かりやすい文章を入れるのが良いのではないかと。 ・図書館機構HPやKULINEのお知らせは、あまり目に入らない。 ・チラシのポスティングは、複数の教員がいる研究室では、チラシを目にしない先生も多いのではないかと。	・確かに、二重取りと言われれば、二重取りと言える。 ・ただし、OAにすることに意味が無いというわけではない。	・KURENAIでオープンにすることは良いことだと思う。メールで連絡をもらえるので、それを受けて登録している。 ・論文DL数を知らせてもらえるので自論文が閲覧されているという実感が得られる。
12	農学	・研究に携わっているスタッフの科研費も含めて研究室の論文として出すので、研究室で負担する。	・支援してくれるのであれば、勿論嬉しい。しかし制度上の問題は多いと思われる。 ・例えば、パイが限られている間接経費を財源として用いるのであれば、それによって人件費等にしろ寄せが来ることもあるので、慎重に考える必要がある。 ・論文を発表してAPCを払うまでが1つの研究活動と考えている。ポジティブなインセンティブとなるかどうかかわからない。 ・全ての論文を支援するのではなく、英文校正のように支援に枠があって、一部なら良いのでは。 ・不当にAPCが高い論文の取り扱いをどうするのか。	・額面通りの金額で。雑誌によってはエディターなので少し安くなることもある。冊子体の雑誌を無料でもらえることもある。	・リストを作ってウェブサイトに載せておいて、メールでお知らせ。ただしSubjectは「APCのオプション」というのではなく、教員に関係があると思ってもらえるように「論文投稿料の割引」などにする。 ・Officialに情報を流す。機構長から研究担当理事に話を通して、教授会で報告し、Topdownで周知する。 ・多少面倒な手続きでも、安くなるなら割引を申請する教員はいる。 ・図書館からのお知らせだとEJ経費負担のことだと思って見ない教員もいるのではないかと。	・重複の支払とは考えない。別物と考えている。 ・大学で購読している雑誌にAPCを払ったのなら、購読料を安くしてほしい。	・教授会で報告があったので知っている / 知らなかった。 ・特に博士論文への影響が懸念される。雑誌に掲載された論文を博士論文にするなら大丈夫だが、順番が逆の場合、著作権の管理が問題。 ・日本語論文を博士論文にして公開し、英語論文を雑誌に投稿するという手段もある。
13	工学	・研究費から出している。	・判断が難しい。 ・受益者負担という意味で、自分で払えば良いのではないかと考える。結局は大学の予算であり、自分で払う方がコストに対する利益を当事者として考え、コスト意識が働くので、必ずしも望ましいかどうかかわからない。 ・「みがき」(英文論文作成支援制度)のように、予算枠が決まっていって競争的であれば悪くはないと思う。 ・ただし、applyする手間もあるので、なんでもそのようになってしまうと、労働力という見えないコストもかかり、程度問題だと思う。	・図書館機構サイトの割引情報は知らない。 ・OAや割引では投稿先は選ばない。 ・投稿先を決めた後に情報を見るのが自然。	・何かしようと思った時に簡単に調べることができるよう、情報が整理されたサイトがあると良い。 ・日常的に事務からのメールがたくさん届くが忘れてしまう。時系列ではなく、わかりやすく整理されていることが大事と思う。	・重複費用かどうかは、考え方によると思う。 ・できるだけ多くの人に読んでもらいたいと執筆者としては考えるので、そのための費用と考えれば購読費とは支出目的が違い、二重取りとは考えない。	・インタビューの事前資料に書かれていたので調べて読んだ。それ以前は知らなかった。 ・これまでもKURENAI登録にあたっては、図書館側で事前に調べてもらっているし、労力もありかからないので、抵抗なく登録している。 ・他の研究者から論文提供依頼があった場合、リポジトリを案内することもある。
14	工学	・いつでもそのようにしている。 ・投稿先のアドバイスも行っている。 ・学生の場合は、出版までのスピードが速いことも大事。2年かかるような雑誌もあるので。	・必須だと考える。 ・支援制度があれば、投稿先としてOA誌を対象として考えるかもしれないが、自分の分野にはあまり該当誌が無い。	・招待論文のため対象外。	・リスト一覧の配布。 ・図書館機構サイトの割引情報は知らなかった。	・通常の電子ジャーナルとして DL可能であれば、二重払いの必要はないと考える。	・知っている。KURENAIからの要請には、いつも対応している。 ・ResearchGateで論文を確認し、検索してKURENAIで発見していると思われる。DL数も増えておりよいと思う。 ・editing systemがweb上でのやり取りとなり、手元に著者最終稿が残らないため、KURENAIへの登録が難しい。 ・著者最終稿に作り直して、KURENAI登録依頼に対応したことあった。 ・Elsevier editing systemも最終稿はない。Elsevierは、最終稿はリポジトリ登録可と言いながら最終稿がないのは問題では。 ・editorになっている雑誌はhandling可能で、最終稿も入手可。
15	複合領域		・あれば助かるが、全額となると大学の財政的に難しいのではないかと。 ・以前所属部局でも試みたが実現しなかった。 ・今は自分の研究費で払っているので歯止めがきいているが、大学が支援するとなると(良い意味でも悪い意味でも)投稿数が増えるのではないかと。		・実際にそのEJに投稿したことがある研究者に個別に呼びかける。 ・メールは、タイトルで要件がわかるようにすること。 ・ディスカウントのオファーを出すEJは、投稿が少なくなってきたものではないかと？投稿数が伸びていればディスカウントをする必要がないので		・ジャーナルに投稿する際、始めからジャーナル/出版社独自のテンプレートが決まっているものが多い。そのテンプレートを含めて「著者最終稿」として良いのか。不可の場合、KURENAIに登録するために再編集する必要がある。 ・KURENAIのアクセス数のお知らせは見ている。新聞に載った研究の論文はアクセス数が多い。
16	複合領域	・充分にありうる。学生が論文をOAにしたいと言ってきて、それをOAにすべきと判断したなら、研究室の経費でOAにするのが当然。 ・過去に修士課程の学生がファーストオーサーの論文を、研究室経費でOAにしたことがある。	・あった方が良くと思う。 ・ハゲタカ出版社をどのように排除するかが問題。 ・審査は必要であり、審査の段階で大学がOAにして広めるべきと判断できたら良いのでは。	・ディスカウントはない。	・やはりメールしかないのではないかと。 ・ウェブサイトで、出版社毎にだいたいAPCの金額と、ディスカウント情報をまとめていけば便利ではないかと。	・学外他分野に向けてOAにしたので、重複とは考えていない。	・勿論知っている。著者最終稿を持っていれば掲載するようにしている。これは方針の前、リポジトリが運用開始したころからしていると思う。 ・リポジトリに出版社版を掲載して良いジャーナルなのか、著者最終稿だけなのかを判断するのが難しい。
17	社会科学	・共同研究であれば、分担して払うことがある。共著者でなければ払わない。	・あれば良いと思うが、キリが無いのではないかと。 ・支援する場合、競争的なものにしたら良いと思う。 ・京大の研究者は言われなくても論文を投稿するので関係ないかもしれないが、そうでない大学では論文投稿のインセンティブになるかもしれない。	・今回は定価。 ・特集号で、編集委員から「書きませんか。」という誘いがあった場合には、割引になることがあった。	・競争的資金のページは、よく見ている先生もいるので、そこからリンクしてもらうのが良いのではないかと。例えばURAの「鑑」など。	・二重払いだと思うし、金額もさらに高い。 ・論文の宣伝費用だと思えば、意味があるのかも知れないが、実際に見かけるケースはあまりない。	・知らなかった。 ・図書館から連絡が来るので、それを受ける形でKURENAIに既にいくつか論文を載せている。論文をKURENAIに載せたくない、という意見がよく分からない。何のために論文を書いているのだろうか。コピペされたくない？
18	社会科学	・ある。そのこと自体は、問題だとは思わない。	・OA費を支援するのであれば、それに限定せず、研究費そのものを支援していただいた方が望ましいのではないかと。全ての研究者がOAに魅力を感じていない可能性もある。	・割引されている。割引されていなければ投稿していなかったかもしれない。以前に同様の方法で割引の存在を知ったので、今回も利用した。	・あまり想像できない。それぞれの学問領域によって異なるものを、全学で個別に対応するのは効率的ではないように感じる。その人件費を研究費として回す方が効果的ではないかと。	・異常だと思う。しかも、異様に高い。何を考えているのかよく分からない。それゆえに個人的にはこうした類の雑誌には投稿していない。伝統的なハイインパクトの雑誌が、無料でOAに切り替えるならば、そちらにより投稿するかもしれない。	・知っている。OAの方向に進むこと自体は望ましいことのように感じる。しかし、雑誌によってはオープンにすることを禁じている所も多いように見える。具体的に何か研究者にベネフィットを与えているように少なくとも現在のところ感じていない。



NO	分野	7.その他、オープンアクセスや電子ジャーナルに関してご意見などありますか？	備考・その他
1	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・案内を簡略にしてほしい。リボジトリ登録依頼も来たことはあったが、忙しくて読むのを後回しにしている。</li><li>・ID選択の画面が毎回でるし、またPubMedを検索しようとするとき認証画面が何度も出てしまう(1時間位経つと出る?)。何とかしてほしい。(回答:ID選択の画面が毎回出るのはキャッシュクリアして設定が消えているのかもしれない(キャッシュをクリアしないと論文を閲覧できなくなる不具合もあるので結局クリアすることになることもある)。認証画面が頻繁に出る原因はよくわからない。調べます。(→タイムアウトの可能性?)</li><li>・学部から京大だが図書館には行ったことない。今の環境には満足している。</li><li>・もっと購読してほしい雑誌があるので補充してほしい。(回答:雑誌購読の希望は研究室単位で年に一度お伺いしている。そちらで希望を出してもらえたら)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「こういうOA誌が出来ましたので投稿してください。」というメールが中国などから1日10通くらい来るので大変。(回答:悪質な出版社の存在も報告されているので注意してください。)</li></ul>
2	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・京大にいる限りは快適に利用している。このくらいのEJがあれば良い、というタイトルは見る事ができている。</li><li>・(京大で契約していない論文については)図書館の資料取り寄せについてよく知らないし、簡単なのでお金を払ってもオンライン購入を選んでいる。どれくらい取り寄せが便利かどうかわかれは良い。(インタビュー註:図書館での論文取り寄せは著作権の関係上、基本紙のやり取りになる。)せっかく電子でできるのに、なぜ紙媒体なのかと思う。著作権が時代にそぐわず古いと思うので頑張って突破していただきたい。</li><li>・本当に忙しいので、ややこしい手続きはしたくない。論文・出版に関係する事務作業は教員にしわ寄せがいく。小さい研究室だと教員が全部やることになり勘弁してほしい。</li><li>・(図書館にある物質的なコレクションについて)EJの比率がここまで高くなっている現状でものをどうしていくのか、10年のスパンで医学図書館をどうしていくか、研究に関する情報を形而的に管理保管するという図書館のしくみは変わっていても良いかと思う。図書館学の研究者が検討しているだろうが現場に反映されるのはいつになるか。</li><li>・(データリポジトリについて)ビックデータの分野はセントライズしたデータ保管になると思う。日本は研究機関が集まるといように動かないのでどうなっていくか気になる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>(これまでに払ったAPCの積算はどれくらいか)</li><li>・研究を始めて12~13年だが、その頃からジャーナルにはお金がかかっていたのではないか。</li><li>・(自分の論文の)何割位がAPCを払うジャーナルだったか覚えてないので分からない。</li></ul>
3	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・OAを進める場合、まず文系を支援するのが良いのでは。文系分野には引用・被引用のきちんとしたDBがない。電子化もこれから。引用・被引用が大事であることを理解してもらって。</li><li>・理系はIFのある雑誌に掲載されて評価になり、それが研究費に反映される。研究室運営に必要な経費の9割は競争的資金であり、その一部が広告としての投稿料であると考える。</li><li>・数万円でOA化され、二次利用ができ、引用し合えることは学術Societyとしては、あるべき姿か？お金がある人だけが読める、というのは問題。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・データリポジトリについて研究科内で検討中。本来は大学がファイルサーバ等を用意してくれれば良い。メタデータや研究ノートとデータの結びつけも大事。</li><li>・投稿時の査読者指名は以前からあったが、最初に読んでもらうeditorを指名するケース(Scientific reports)が出てきた。</li></ul>
4	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・地方大学では予算不足により、EJへのアクセスが制限されてしまうことを恐れる。</li></ul>	
5	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・良く利用するEJは読むことができるので、それほど不便を感じたことは無い。</li><li>・図書館はほとんど利用していないので、他のサービスについては良く分からない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>(EJの部局負担について、所属部局で負担しきれないという話はあるか?)</li><li>・あまり聞いたことがない。どれくらい払っているのかもわからない。</li></ul>
6	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・論文について問い合わせがきたことがきっかけで、KURENAIには登録したことがある。取り組みにも意味があると思うので積極的に協力したい。</li><li>・OA誌に投稿した場合も登録しないといけないのか？(回答:この方針は京大の研究成果を把握するという目的もあると思うので、登録できるものは登録してほしい。博論の場合はリポジトリ登録が必須。)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>(いつ頃からOAを認識しはじめたか?)</li><li>・2007年頃から論文を投稿し始めたが、OA誌を認識し始めたのもおそらくその頃。PlosOneのIFが付くときにざわざわしていたのは覚えている。BMCは大学院にいた頃(2005年か2006年に院入学)にすでにOAと理解していた。</li><li>・アクセプトされてもされなくても、投稿した瞬間にお金を払う論文もあった。投稿料の概念も呼称もまちまち。</li><li>・英文校間にもお金がかかるので、そちらの支援(KURAの「みがき」)はありがたい。ただ英文校閲者を大学で雇ったほうが効率が良いかもしれない。</li><li>(ResearchGateのような研究者サイトは使っているか?)</li><li>・ResearchGateは使っていない。researchmapを使っている。</li></ul>
7	医歯薬学	<ul style="list-style-type: none"><li>・所属する研究科ではEJ経費の高騰が問題になっている。</li><li>・薬学の研究ではいろいろな分野の雑誌を読む。</li><li>・OAがEJ経費削減の役に立つと、定量的に示されれば良いと思う。</li><li>・Article LinkerからNCBI(PubMed Central)やKURENAIへリンクすると良いのではないだろうか。</li><li>・最近京大から見られない雑誌への投稿はしないようにしているが、自分が書いた論文が京都大学から見られないことがある。</li></ul>	
8	生物学	<ul style="list-style-type: none"><li>・学会主導の分野内の国際ネットワークを作るべき。この分野では研究者内のコミュニティがある程度構築されていて、学会ベースの良いジャーナルもある。PNASよりIFの高い雑誌もある。</li><li>・例えば、日本植物生理学会が発行する「Plant and Cell Physiology」は日本が発行主体の高IF誌。日本の研究者が積極的に投稿して支えてきたという経緯がある。媒体を育てていけないといけない。</li><li>・植物生理学分野ではリクエストがあった場合は研究の材料(種子)を共有しなければならない、という取り決めがある。研究を無料で広くShareするという土壌がある。(論文の著者紹介部分にその旨の記述あり。)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・OAにしろなくても全研究者がResearchGateに登録し、そこで自分の論文をupすれば、業績リストを作ることができる同時に、色々な研究者の論文を見ることができるのではないか。ただそうなると出版業がなくなるのが心配。出版業を支えたいと考えている。出版業のあり方が変わってきているのを感じている。</li><li>・分野によって事情が異なるのでOAについて同じ議論ができないのでは。出版社が商業ベースか学会ベースかによって大きく違う。</li><li>・詐欺のような怪しい雑誌は「オレオレジャーナル」と呼んで注意している。同研究室の講師にオレオレ度を調査してもらい、リストを作って、研究室内で情報共有している。</li></ul>
9	化学	<ul style="list-style-type: none"><li>・出版社のビジネスにうまくやられていて、日本は負けている。良いEJを持っていない。</li><li>・(出版社のビジネスに対抗してリポジトリを使って新たな価値あるジャーナルを大学が作る、などの可能性はないか?という質問に)難しいと思う。</li><li>・All Japanで情報をコントロールすべき。</li><li>・大学ランキングなどの現在の評価システムを無視することができない。ランキングupのための戦略が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学ランキングの指標に使われている論文がどれであるか、大学で把握し、情報共有すべきではないか。以前ランキングの作成元に問い合わせた時は、具体的なリストが出てきた。</li></ul>
10	化学		

NO	分野	7.その他、オープンアクセスや電子ジャーナルに関してご意見などありますか？	備考・その他
11	化学	<ul style="list-style-type: none"><li>・雑誌の購読料を値下げするため、複数の大学が協力するのが良いのではないか。</li><li>・KURENAIでオープンにできる仕組みが分からない。出版社から文句が出ないのか。</li><li>・購読料のほかに、研究者からお金を取るという流れが、2000年代中ごろから見受けられるようになったが、10年ほどたってまだあまり変わっていないように思う。</li><li>・パウチャーという制度は良いと思う。是非、各出版社で同様の制度を導入して欲しい。</li><li>・パウチャー利用の実績調査が実施・結果公開されれば制度の動きが加速するのでは。</li></ul>	
12	農学	<ul style="list-style-type: none"><li>・EJを読む際の認証は面倒。なぜあれがあるのか？</li><li>・自宅のPCからPPTP接続がうまくできない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・普段、Google or Google Scholarでキーワード検索。</li><li>・Pub MedはGoogleに比べて検索機能が良くない。</li><li>・Scopusは引用回数・文献を知るために使っている。</li></ul>
13	工学	<ul style="list-style-type: none"><li>・EJの部局負担について、専門分野は部局経費、広い分野のジャーナルは全学経費となっているのは、公正な受益者負担ではないと感じる。</li><li>・EJにかける費用に対し、それを十分に生かしているかどうかわからない。</li><li>・PPVで読むこともできるので、費用対効果を考えて、購読誌や制度を評価しなければならない。</li></ul>	
14	工学	<ul style="list-style-type: none"><li>・IFが研究者の評価に使われるようになったことで、出版社もそれを商売に利用している。</li><li>・学問分野によつての違いもあると思う。</li><li>・学術出版の世界では、学術雑誌の組み替え、統合、分野間での顧客争い／囲い込みが進んでいる。</li><li>・出版に係る費用が高額化している。</li><li>・EJを多く読むことのできる環境は良いことであるが、そのために学生が事前に精査せず無駄にDLすることも多いと思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際会議でフルペーパーで発表すると、それを撮影して利用／盗用される。特に図、グラフ、データ、数式等。</li><li>・そのため、国際会議ではもうフルペーパーでの発表は止めようと言っている。特許に係ること等もあるので、フルペーパーの公表はsubmit後。</li><li>・ScienceDirect はreviewerになると、30日間無料で読むことができる。EJ契約していない大学の先生は、一生懸命査読者になって、読めるようにしていることもある。</li></ul>
15	複合領域	<ul style="list-style-type: none"><li>・OAであることでCitationが上がり、IFにも影響する。投稿料が高額であることを除けば、著者にも出版社にもよいシステム。</li><li>・OA誌は出版社のうまい商売。フット・イン・ザ・ドアという詐欺まがいのテクニック。</li><li>・自分もジャーナルのEditorをしていて、同じ学会のOA誌へのトランスファーをオファーすることがあるが、これで良いのか疑問に感じる部分はある。</li><li>・しかし、トランスファーのオファーに対して「もうそれでいいから早く掲載してほしい。」となってしまうことへの対策は無理だろう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・高IF誌には「この雑誌の掲載論文は全て読む。」という人がいるかもしれないが、OA誌には特定の読者がいない。</li><li>・OA誌といっても様々。Nature CommunicationsとeLifeではまた違う。</li></ul>
16	複合領域	<ul style="list-style-type: none"><li>・EJのライセンスについては、研究者が直接経費を負担する形にはなっていないので実感として分らないが、現在買っている雑誌は維持してもらえると助かる。突然IEEEが見られなくなったら困る。</li><li>・出版社に対して国内でまとまって交渉をしていくことが必要なのでは。</li><li>・ちゃんとしたジャーナルを、OAだからというだけで否定する先生は周りにはいない。ハゲタカ出版社に対する憂慮はある。OA誌でも真面目にやっているジャーナルがあることは理解している。</li><li>・若手の研究者が、論文を出して業績を作りたいがお金が無くて論文を出せない、と言うことにはならないと良い。</li></ul>	
17	社会科学	<ul style="list-style-type: none"><li>・最近投稿したOA誌2誌は、どちらも査読が遅いのが不満。特に投稿してから査読者が決まるまでに時間がかかる。「投稿された論文が見つからなかった。」と言われ、そんなはずがない、と返信をしてようやく査読者が決まる。査読者が決まってから査読が終わるまでは早い。逆に、査読者としては、すぐに査読結果を出すことを求められる。</li><li>・自分の研究領域のジャーナルは、他大学へ移ると、国立大学でも見られないことがある。学内ではあまり意識しないが京都大学の環境が恵まれていたことが分かる。一度そういう経験をするとOAへのモチベーションが上がる。</li><li>・トップ研究者はあまりOA誌には投稿しない。アメリカでもやはりOA誌に投稿するのは若手から中堅の研究者が多い。トップ研究者はトップジャーナルに論文を載せられるからだろうか。</li></ul>	
18	社会科学	<ul style="list-style-type: none"><li>・私の回答は、人文社会科学系領域のひとつの意見に過ぎないので、それが他の類似領域に同様に当てはまるかどうかは分からない。</li><li>・OAのメリットばかりに気を取られてはいけないと思う。デメリットは、<ul style="list-style-type: none"><li>&gt;費用がかかる。</li><li>&gt;高IFの伝統的な雑誌に比べて査読の質が低いことが多い。</li><li>&gt;研究者の年齢や領域によって評価のばらつきが大きい。それによって、個別の論文が高いインパクトを持っていたも、申請書や公募などにおいて評価されないことがある。</li><li>&gt;OAであるものの、結局誰にも読まれていない、引用されていないものがほとんどである。</li><li>&gt;OA誌には、雑誌によってあまりにひどい内容やシステムのものもある。</li><li>&gt;一般の人にも読んでもらえるという長所を指摘したが、それがどの程度行われているかは不明。特に、英語論文を、一般の人がどの程度読んでいるかは分からない。結局、ゆがめられた報道に依存しているようにも感じる。</li></ul></li><li>・OAがより可能になっても、それが一般の人まで正確に伝わるようなシステムが欠落している。メディアは実際の研究知見をゆがめて報告してしまっているように見える。それを受けて、一般の人は更に面白おかしく情報発信をする。結局研究知見とはかけ離れたものが行き届いてしまうことが多いように見える。その橋渡しをする、的確に訓練されたサイエンスライターが日本には少ないように感じる(そうした能力のある個人は多いが、それを受け入れる社会的なシステムが今のところ見られない)。過去にそうした経験があり、今回の論文にはかなり気を使ったので、大きな問題は発生しなかった。</li><li>・伝統的なIFが高い雑誌に載ったからすごいという風潮はおかしいように感じる。そうした雑誌のIFの高さは一部の論文が引き上げているのであって、全ての論文が多く引用されている訳ではない。もっと論文単位で評価が下されるべきだと思う。そういう点で、OA誌は貢献する可能性がある。</li></ul>	

## 5. オープンアクセス費のディスカウントオプション

### 1. 調査内容

「1. データベースによるオープンアクセス費推計」で抽出した論文の掲載ジャーナル、およびその他の主要出版社について、オープンアクセス費の割引条件が設定されているかを調査した（資料4-1）。また、そのうち著者が京都大学の構成員の場合に適用される割引を抽出した。

### 2. 調査結果

(1) 割引条件の適用は、おおむね次のように分類することができる。

- ① 著者がそのジャーナルを購読している機関に所属している
- ② 著者がそのジャーナル（出版社）の有料メンバーシップに参加している機関に所属している
- ③ 著者が当初同じ出版社の別のジャーナルに投稿し、エディターに当該ジャーナルへの投稿を推薦された（トランスファー）
- ④ エディターから特に推薦があった。（\*今回調査では該当なし。）
- ⑤ 著者がそのジャーナルの発行母体の学会員である
- ⑥ 著者がそのジャーナルのレビュアーやエディターである（であった）
- ⑦ その他

(2) 著者が京都大学の構成員の場合に適用される割引について、図書館機構ウェブサイトに掲載し、各種メーリングリストで通知を行った。

京都大学図書館機構・オープンアクセス誌投稿料の割引情報について：

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content\\_id=89](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/content0/index.php?content_id=89)

### 3. 課題

- 出版社毎に多様な条件での割引が行われている。さらに出版社によってはジャーナル毎に割引条件が異なるため、網羅的な情報の取得が難しい。
- 今後、この調査結果を本学構成員に周知し、定期的な情報のアップデートをどのように行うか。研究支援部門との連携も要検討である。
- 有料メンバーシップに加入することにより、オープンアクセス費の総額が安価になる出版社が出てきている。今後、有料メンバーシップに加入した場合、特定の出版社への投稿が有利になるため、公平性の観点から問題がないか、検討する必要がある。

APC割引一覧(2015.12現在)

※緑のハイライトジャーナル＝著者が京都大学の構成員であれば割引が適用されるもの

Full OA(F) or Hybrid (H)	出版社・学会	ジャーナル名	ISSN	APC割引情報(英)	割引情報(日・要約)	該当URL	備考
F	American Association for the Advancement of Science	Science Advances	23752548	AAAS members receive a 4% discount on APCs. For a CC BY-NC article, the member discount is \$120.  Corresponding authors at institutions that license or subscribe to AAAS journals may receive up to a 30% discount. For a CC BY-NC article, the maximum discount is \$900. The discount is based on institutional holdings. Authors at institutions that subscribe to all AAAS products, the complete Science collection, receive the maximum discount. Authors at institutions that do not have the complete Science collection can save 5% or \$150 for each resource subscription.	AAASのメンバーであればAPCが4%割引。 著者の所属機関がAAASの雑誌を購入していればAPCが最大30%割引	<a href="http://advances.sciencemag.org/content/article-processing-charges">http://advances.sciencemag.org/content/article-processing-charges</a>	京都大学に所属の著者はAPC30%割引適用
F、H	American Chemical Society	全ジャーナル			ACS AuthorChoiceを選択する場合、「“All ACS Publications” Subscribing Institutions」に所属していれば割引が適用される。(京都大学は該当する)。投稿者がACSの会員である場合は、さらに割引率が高くなる。	<a href="http://pubs.acs.org/page/4authors/authorchoice/index.html">http://pubs.acs.org/page/4authors/authorchoice/index.html</a>	その他、ACSではさまざまなオープンアクセスのためのオプションを提供している。 <a href="http://acsopenaccess.org/">http://acsopenaccess.org/</a>
H	American Physical Society	Physical Review Letters	00319007	authors of published Letters are expected to pay a publication charge of \$720 (\$255 for a Comment or Reply). Charges are higher (\$900 for a Letter, \$330 for a Comment or Reply) for those that are not submitted in an acceptable electronic format. Acceptable formats are REVTeX (preferred), LaTeX, plain TeX, MS Word, PostScript figures (preferred).	APCの他にSubmission Feeが必要で、Physical Review Lettersは所定の様式で提出されていれば\$900→\$720に減額される	<a href="http://journals.aps.org/prl/authors/publication-charges-physical-review-letters">http://journals.aps.org/prl/authors/publication-charges-physical-review-letters</a>	
H	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	・The Journal of Biological Chemistry ・Molecular & Cellular Proteomics ・Journal of Lipid Research		\$1,500 fee for ASBMB members and \$2,000 fee for nonmembers	学会員 (ASBMB members) の場合は割引あり	<a href="https://www.asbmb.org/News.aspx?id=33115">https://www.asbmb.org/News.aspx?id=33115</a>	Papers in Pressの間はオープンアクセス
H	American Society of Plant Biologists	PLANT PHYSIOLOGY	00320889	Research Articles: \$1,900  \$1,600 if corresponding author (CA) is a member of ASPB  Research Reports: \$900  \$800 if CA is a member of ASPB  OPEN: \$1,500 if CA institution does not subscribe  \$750 if CA's institution subscribes to Plant Physiology  FREE if CA is a member of ASPB	Corresponding Authorが購読機関に所属していればAPCが\$1,500→\$750に減額される。 Corresponding AuthorがASPB学会員であればAPC無料	<a href="http://pphys.msubmit.net/cgi-bin/main.plex?form_type=display_auth_instructions">http://pphys.msubmit.net/cgi-bin/main.plex?form_type=display_auth_instructions</a>	
F、H	Association for Computing Machinery	全ジャーナル		Authors: NO APC for SIG members. At least 1 ACM or SIG member Full Journal Article \$1,700 \$1,300 Full Book Review Article \$600 \$300	著者の中で1人でもACMかSIGの会員がいればAPCを割引	<a href="http://authors.acm.org/main.html">http://authors.acm.org/main.html</a>	一部APC無料の雑誌もあり
F、H	Bioscientifica	全ジャーナル		The Article Publication Charges (APCs) payable by authors (or their funders or institutions) upon acceptance for 'gold' open access are summarised in Table 2, along with any discounts and the user licences available.	・雑誌によっては著者が各誌指定の学会のメンバーであれば割引がある場合がある。 ・所属機関がその雑誌を購読していれば割引あり。	<a href="http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml">http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml</a>	他、各誌、APCについての案内部分に同様の記載あり
F	Bioscientifica	Endocrine Connections	20493614	Members of the European Society of Endocrinology and the Society for Endocrinology benefit from a discounted publication charge of 675 GBP.	European Society of Endocrinology と Society for Endocrinologyの構成員は£675に割引き。	<a href="http://www.endocrineconnections.com/site/misc/For-Authors.xhtml#charges">http://www.endocrineconnections.com/site/misc/For-Authors.xhtml#charges</a>	
H	Bioscientifica	Journal of Endocrinology	00220795	Full APC: £2,700 Non-profit subscribers: £1,350	著者が購読機関(非営利)に所属していれば£1,350に割引き	<a href="http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml">http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml</a>	
H	Bioscientifica	Reproduction	14701626	Full APC: £2700 Non-profit subscribers: £1,350	著者が購読機関(非営利)に所属していれば£1,350に割引き	<a href="http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml">http://www.endocrinology-journals.org/site/misc/Bioscientifica_Open_Access_Policy.xhtml</a>	
F	BMJ	BMJ Open	20446055	A number of institutions have joined BMJ's Open Access Programme, which can either cover the whole cost of Open Access publishing for authors at participating institutions, or can allow authors to receive a discount off the article publishing charge (APC).	メンバーシップ会員は所定のディスカウント	<a href="http://journals.bmj.com/site/authors/openaccess.xhtml#open-access-institutional-memberships">http://journals.bmj.com/site/authors/openaccess.xhtml#open-access-institutional-memberships</a>	
H	Electrochemical Society (ECS)	全ジャーナル		ECS Plus offers institutions and libraries access to all of our published content in the ECS Digital Library, PLUS unlimited Article Credits for authors affiliated with their organizations who wish to publish OA. Our introductory price for ECS Plus is exceptionally competitive (and is still subsidized by ECS), and we hope that the research library community will support both us and members of their science faculty who wish to publish Open Access by signing up to this offering.	ECS Plusを契約すればAPCが無料になる	<a href="http://ecsd.org/site/ecs/2016_changes.xhtml">http://ecsd.org/site/ecs/2016_changes.xhtml</a>	
F	Elsevier	Stem Cell Reports	22136711	To provide open access, expenses are offset by a publication fee of \$3,500 (USD) or \$3,000 (USD) for ISSCR members that will allow Stem Cell Reports to support itself in a fully sustainable way.	ISSCRのメンバーの場合は500\$割引き	<a href="http://www.cell.com/stem-cell-reports/authors">http://www.cell.com/stem-cell-reports/authors</a>	

Full OA(F) or Hybrid (H)	出版社・学会	ジャーナル名	ISSN	APC割引情報(英)	割引情報(日・要約)	該当URL	備考
F	Faculty of 1000	F1000 Research	20461402	Articles whose main topic we consider suitable for the scope of the subject area “Publishing, Education and Communication” and which do not exceed the length limit of a long article (8,000 words) will receive a 100% waiver in 2016. The following discounts will be given if one of the authors on the article falls into one of these groups: F1000Research referees: 50% discount on any article submitted within the ensuing 12 months. F1000Research Advisory Board members: 50% discount. F1000 Faculty Members: up to 50%, depending on role. Subscribers to F1000 who visit F1000Workspace will be eligible to publish one short article (see definition above) free from article processing charges (offer valid for 12 months from date of accessing F1000Workspace). Discounts cannot be combined to cover the fee for a single article. If authors on an article are eligible for various individual discounts, the largest discount is applied.	・ “Publishing, Education and Communication” の分野で8,000語をこえない論文は2016年APC無料 ・Research referees, Advisory Board membersは50%オフ ・Faculty Membersはroleによって最大50%オフ	<a href="http://f1000research.com/for-authors/article-processing-charges">http://f1000research.com/for-authors/article-processing-charges</a>	
	Frontiers Media SA	全ジャーナル		Pre-Payment Institutional Account Central Invoicing Arrangement	前払い制または機関へ毎月一括請求で機関割引あり	<a href="http://home.frontiersin.org/about/institutional-membership">http://home.frontiersin.org/about/institutional-membership</a>	ディスカウント率は不明・機関によるとされている
F	Genetics Society of Japan	Genes and Genetic Systems	13417568	5) Page charges Members of the Genetics Society of Japan are requested to pay ¥4,000 for each printed page and an extra cost for color printing amounting to ¥20,000 per color figure, while nonmembers are requested to pay ¥6,000 for each printed page and an extra cost of color printing amounting to ¥30,000 per color figure. Page charges are waived for invited reviews.	正会員だと掲載料割引	<a href="http://gsj3.jp/ggs/intro.html">http://gsj3.jp/ggs/intro.html</a>	
	Hindawi Publishing Corporation	全ジャーナル		If your institute is a member of Hindawi institutional membership program, you will not be subject to any article processing charges. Please ask your librarian to contact us at memberships@hindawi.com in order to receive a quotation or to arrange for an “Institutional Membership” for your organization.	Hindawi機関メンバーに所属機関が加入していればAPC不要	<a href="http://www.hindawi.com/journals/tswj/apc/">http://www.hindawi.com/journals/tswj/apc/</a>	
F、H	Institute of Electrical and Electronics Engineers	全ジャーナル		IEEE will apply a discount to current IEEE members. IEEE Members will receive a 5% discount, and members of IEEE Societies will receive a 15% discount. Discounts cannot be combined or applied to any other fees such as over-length article or color page charges.	IEEEの会員の場合は5%割引。IEEE分科会の会員の場合は15%割引。他の割引との併用は不可。超過ページ料金等への適用は不可。	<a href="http://open.ieee.org/faq.html">http://open.ieee.org/faq.html</a>	会費一覧 <a href="http://www.ieee.org/membership_services/membership/join/join_dues.html">http://www.ieee.org/membership_services/membership/join/join_dues.html</a>
F、H	IOP Publishing	全ジャーナル		In January 2014, we introduced a new referee reward scheme as part of the company’s open access policy. The move has been made to help recognise the contribution made by reviewers to the peer-review process. It also benefits researchers who wish to make the final published version of their work immediately available through gold open access. Under the new programme, referees will be offered a 10% credit towards the cost of publishing on a gold open access basis when they review an article.	refereeをするとAPC10%ディスカウントのクーポンがもらえる	<a href="http://iopscience.iop.org/info/page/openaccess">http://iopscience.iop.org/info/page/openaccess</a>	
F	IOP Publishing	New Journal of Physics	13672630	・Members of NJP Associate Members receive a 5% discount (applicable only once per article). ・Through its participation in the SCOAP3 agreement, New Journal of Physics is able to offer authors of qualifying high-energy physics articles the chance to publish on an open access basis without paying any fee, with effect from 1 January 2014. The article publishing charges (APCs) will be paid by CERN on behalf of the SCOAP3 consortium. To qualify, article preprints must be deposited in one of the hep-ex, hep-lat, hep-ph or hep-th primary categories of arXiv.org and authors must indicate that their article qualifies for SCOAP3 funding during the regular article submission process.	NJP Associate Members(Physical Society of Japan含む)は5%ディスカウント arXivで hep-ex, hep-lat, hep-ph or hep-th のカテゴリーに入る論文はSCOAP3対象	<a href="http://iopscience.iop.org/1367-2630/page/Article%20charge">http://iopscience.iop.org/1367-2630/page/Article%20charge</a>	
F	Elsevier	Journal of Pharmacological Sciences	13478613	・The following publication Fees are charged to the authors with the JPS membership. Full Paper (limit 8 pages): JPY 75,000 Review type article (limit 8 pages): JPY 75,000 Short Communication (limit 4 pages): JPY 35,000 Correspondence (limit 4 pages): JPY 35,000 Extra page charge exceeding the limit pages: JPY 10,000 per page	日本薬理学会会員の場合割引あり	<a href="https://www.elsevier.com/journals/journal-of-pharmacological-sciences/1347-8613/guide-for-authors">https://www.elsevier.com/journals/journal-of-pharmacological-sciences/1347-8613/guide-for-authors</a>	
F	Japanese Society of Internal Medicine	Internal Medicine	09182918	Starting 0:00 AM, September 1, 2015 (Japan Time), a submission fee of \$300 (USD) is applicable to all manuscripts submitted by the NON-MEMBERS of the Japanese Society of Internal Medicine (JSIM). This is also required when resubmitting a manuscript that was previously rejected. The fee is applicable to all types of manuscripts. Submission fee is waived only if the first author of the manuscript is a member of the Japanese Society of Internal Medicine. The submission fee must be paid via PayPal (no alternatives). Once you complete submitting your manuscript from Internal Medicine's manuscript submission site ( <a href="https://mc.manuscriptcentral.com/im">https://mc.manuscriptcentral.com/im</a> ), you will receive a submission confirmation e-mail, which contains the instruction for making a payment.	会員投稿料無料	<a href="http://www.naika.or.jp/imonline/submission_processing_fee.html">http://www.naika.or.jp/imonline/submission_processing_fee.html</a>	
F	Japanese Society of Veterinary Science	Journal of Veterinary Medical Science	09167250		正会員だと投稿料割引	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/jstage/pub/jvms/pdf/regulation_ja.pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/jstage/pub/jvms/pdf/regulation_ja.pdf</a>	責任著者が日本獣医学会会員である場合、投稿料は1編につき原著、総説13,000円、短報9,000円とする。責任著者が非会員である場合、原著・総説・短報を問わず1編につき25,000円とする。投稿料は論文採択後、学会の請求により指定の口座(本規程18)に振込むこととする。但し委員会が依頼した総説については投稿料は無料とする。
	JMIR Publications Inc.	全ジャーナル		(certain institutional membership schemes only): Article Processing Fee (APF) waivers	所属機関が機関会員の場合、会員クラスによっては免除を受けることができる。	<a href="http://www.jmir.org/cms/view/support_%26amp%3B_membership">http://www.jmir.org/cms/view/support_%26amp%3B_membership</a>	



Full OA(F) or Hybrid (H)	出版社・学会	ジャーナル名	ISSN	APC割引情報(英)	割引情報(日・要約)	該当URL	備考
	MDPI AG	全ジャーナル		MDPI established an institutional membership scheme which grants authors of member institutes significant discounts on the regular Article Processing Charges (APC).	MDPIメンバーシップの参加機関所属の場合は割引あり。	<a href="http://www.mdpi.com/about/apc">http://www.mdpi.com/about/apc</a>	
F	Medical Association of Nippon Medical School	Journal of Nippon Medical School	13454676	Except in the case of articles requested by the Editorial Committee, publication expenses are borne by the author.	依頼原稿の場合は著者負担なし		
F	Meteorological Society of Japan	Journal of the Meteorological Society of Japan Ser II	21869057	Authors are requested to pay a publication charge of 4,000 yen (4,500 yen for nonmembers of the Meteorological Society of Japan) per printed page. For Articles exceeding 12 printed pages and for Notes exceeding 8 printed pages, 10,000 yen (10,500 yen for nonmembers) per page will be charged for each additional page. An additional page charge of 2,000 yen is required for the Japanese abstract to be printed in Tenki (Sections 3 and 6). For authors who submit only a hard copy of the manuscript, an additional 2,000 yen per page will be charged for typesetting. For color photos and drawings, an additional charge of 21,000 yen per page at maximum will be imposed. Invited Review Articles of up to 20 printed pages are exempted from the page charge and the Japanese Abstract fee. The page charges are invoiced after the middle of the next month of publication date. *) Since the June issue of 2012 (Vol. 90, No. 3), the color page charge is reduced to 21,000 yen per page.	正会員だとpublication charge割引	<a href="http://jmsj.metsoc.jp/GuideforAuthors.pdf">http://jmsj.metsoc.jp/GuideforAuthors.pdf</a>	
H	National Academy of Sciences	Proceedings of the National Academy of Sciences	00278424	Open access: Authors of research articles may pay a surcharge of \$1,350 to make their paper freely available through PNAS open access option. If your institution has a Site License, the open access surcharge is \$1,000. All articles are free online after 6 months.	サイトライセンスがあると350ドルディスカウントされる。	<a href="http://www.pnas.org/site/authors/fees.xhtml">http://www.pnas.org/site/authors/fees.xhtml</a>	
H	Nature Publishing Group	British Journal of Cancer	00070920	BJC authors based at an institution with an active site licence to BJC pay a reduced article processing charge for publishing open access in BJC.	サイトライセンスがあるとディスカウントされる。	<a href="http://www.nature.com/bjc/authors/submit.html#open">http://www.nature.com/bjc/authors/submit.html#open</a>	
F	Oxford University Press	Journal of Radiation Research	04493060	Author charge (per article) if the corresponding author is a member of either JRRS or JASTRO: £350/\$560/€420* Author charge (per article) if the corresponding author is not a member of either JRRS or JASTRO: £1,000/\$1,600/€1,250	著者が日本放射線腫瘍学会員または日本放射線影響学会員の場合割引あり	<a href="http://www.oxfordjournals.org/our_journals/jrr/for_authors/charges.html">http://www.oxfordjournals.org/our_journals/jrr/for_authors/charges.html</a>	
F	Oxford University Press	Nucleic Acids Research	03051048	Author charge (per article) Member institution – £710 / \$1,385 / €1,065 (50% discount)	メンバー機関は50%割引	<a href="http://www.oxfordjournals.org/our_journals/nar/for_authors/msprep_submission.html#charges">http://www.oxfordjournals.org/our_journals/nar/for_authors/msprep_submission.html#charges</a>	
F	PeerJ	PeerJ	21678359		投稿するために会費を支払う必要がある。機関がまとめて会費を支払うこともできる。	<a href="https://peerj.com/blog/post/85002106083/how-an-institutional-arrangement-works-at-peerj">https://peerj.com/blog/post/85002106083/how-an-institutional-arrangement-works-at-peerj</a>	
F	Pensoft Publishers	ZooKeys	13132970	Members of institutions who have subscribed for the print version of ZooKeys	冊子体を買っていたら、10%off	<a href="http://zookeys.pensoft.net/about#Article-Processing-Charges">http://zookeys.pensoft.net/about#Article-Processing-Charges</a>	
F、H	Portland Press	・Biochemical Journal ・Biochemical Society Transactions			著者が学会員が購読機関に所属していればAPC割引あり	<a href="http://www.portlandpresspublishing.com/content/open-access-policy#Gold-Open-Access">http://www.portlandpresspublishing.com/content/open-access-policy#Gold-Open-Access</a>	京都大学で2016年に購読があるのは ・Biochemical Journal ・Biochemical Society Transactions の2誌
F	Public Library of Science (PLOS)	全ジャーナル		PLOS currently offers an institutional program to support Open Access scientific publishing. Participating institutions have arrangements with PLOS to administer payment for full publication fees for their institutions' authors. To be eligible, authors must be a corresponding author affiliated with the institution or agency in the Institutional Account Program (fully paid or restricted). (Special note to UK authors – certain institutions will restrict payment to cover for Wellcome Trust and RCUK research grant recipients only.) Authors who need to request additional support should apply for PLOS PFA.	“Institutional Account Program”に corresponding authorの所属機関が加入していれば支払いのサポートが受けられる	<a href="http://journals.plos.org/ploscompbiol/s/publication-fees">http://journals.plos.org/ploscompbiol/s/publication-fees</a>	
F、H	Royal Society	全ジャーナル		Discounts of up to 25% are offered on each article processing charge, making research grants and institutional open access funds stretch further.	機関向けの有料メンバーシップがある	<a href="https://royalsociety.org/journals/librarians/open-access-membership/">https://royalsociety.org/journals/librarians/open-access-membership/</a>	
F、H	Royal Society of Chemistry	全ジャーナル		Gold for Gold is an innovative experiment from the RSC that enables researchers to publish their paper in RSC journals free of charge, as a Gold Open Access (OA) article, without paying the normal Article Publication Fee (APF).	Gold for Gold RSC Goldを購読している機関は購読料に応じてバウチャーが発行される。1論文につき1バウチャーでAPCの支払いに替えることができる。	<a href="http://www.rsc.org/Publishing/librarians/GoldforGoldFAQs.asp">http://www.rsc.org/Publishing/librarians/GoldforGoldFAQs.asp</a>	
F、H	Royal Society of Chemistry	全ジャーナル		Members of the Royal Society of Chemistry  Please include your membership number in the online application form when requested to do so. We will then apply a 15% discount automatically. Find out more about how to join the Royal Society of Chemistry.	RSCの学会員の場合は15%オフ	<a href="http://www.rsc.org/journals-books-databases/open-access/gold-open-access/#charges-discounts">http://www.rsc.org/journals-books-databases/open-access/gold-open-access/#charges-discounts</a>	
F、H	Springer (Biomed Central Ltd.)	全ジャーナル		Supporter Members pay a flat rate annual Membership fee based on the number of science and medical researchers and graduate students at their institution. Authors at the Supporter Member institution are given a 15% discount on the article-processing charge (APC) when publishing in a SpringerOpen, BioMed Central or Chemistry Central journal.	メンバーシップ(前払い、メンバーシップでの割引) <a href="http://www.springeropen.com/libraries">http://www.springeropen.com/libraries</a> ・Prepay: 前払い。前払い金額に応じた割引あり ・Shared Support Membership: 半分を機関が支払う。もう半分为著者が支払う。前払い金額に応じた割引あり。Automated Article-Depositで機関リポジトリに自動デポジット ・Supporter Membership: 15%の割引あり。会費は機関の規模に応じて異なる。医図協/薬図協提案で会費の割引価格あり。Automated Article-Depositで機関リポジトリに自動デポジット  学会で割引や全額支払う場合もあり	<a href="http://progearthplanetsci.org/fee_j.html">http://progearthplanetsci.org/fee_j.html</a>  <a href="http://www.springeropen.com/journals/sponsoredjournals">http://www.springeropen.com/journals/sponsoredjournals</a>	



Full OA(F) or Hybrid (H)	出版社・学会	ジャーナル名	ISSN	APC割引情報(英)	割引情報(日・要約)	該当URL	備考
F	Springer (Biomed Central Ltd.)	Journal of Biomedical Science	14230127	The publication costs for Journal of Biomedical Science are covered by the Ministry of Science and Technology (MOST), Taiwan, so authors do not need to pay an article-processing charge.	台湾科学技術部の支援によりAPC無料	http://www.jbiomedsci.com/about	
H	Springer-Verlag	Journal of High Energy Physics	10298479	The Journal of High Energy Physics (JHEP) is an open-access journal funded by SCOAP3 (scoap3.org) and licensed under CC BY 4.0	SCOAP3対象雑誌のため、APC無料	http://www.springer.com/physics/particle+and+nuclear+physics/journal/13130	
F、H	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	全ジャーナル			いくつかのタイトルについて、学会のメンバーであれば割引あり	http://www.wileyopenaccess.com/details/content/12f25e0654f/Publication-Charges.html	
F、H	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	全ジャーナル			いくつかのタイトルについて、他誌からのトランスファーであれば割引あり	http://www.wileyopenaccess.com/details/content/12f25e0654f/Publication-Charges.html	
F、H	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	全ジャーナル			機関でアカウント保持、機関で支払っている例	http://www.wileyopenaccess.com/details/content/12f25e2eb76/Institutional-and-Funder-Accounts-and-Discounts.html	
F、H	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	全ジャーナル		Annual flat fee payment to receive an APC discount.  Institution pays an annual flat fee: their affiliated authors are then given a 15% discount on the APC, which the authors pay themselves.	一定の金額を支払えば15%オフになる。 金額は機関の規模により異なる	http://www.wileyopenaccess.com/details/content/12f25e73fb9/Partners-Fee.html	
H	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	Cancer Science	13479032	Amount Payable by Author Discount Reference Discount Amount \$1,125 Research Article APC for JCA Society Members* 50%  To obtain the JCA society member discount code, please login at the Japanese Cancer Association site,	JCA(日本癌学会)の会員はAPC50%割引で\$1,125となる。 日本癌学会のサイトから入手したコードと、会員番号を投稿時に入力 http://www.jca.gr.jp/researcher/cancer_science/	http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1349-7006/homepage/article_publication_charges.htm	
F	Wiley Blackwell (Blackwell Publishing)	Journal of Diabetes Investigation	20401116	Amount Payable by Author Discount Reference Discount Amount \$500 (\$1,000 for those accepted after 1 October 2015)* Non-industry-supported/sponsored Research Article APC for AASD Society Members** in developed countries 83.4% (66.7% after 1 october 2015)	AASD(Asian Association for the Study of Diabetes)のメンバー(先進国所属)は、2015/10/1以降は1,000\$(66.7%off)	http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)2040-1124/homepage/article_publication_charges.htm	
F	Wiley Blackwell (John Wiley & Sons)	Cancer Medicine	20457634	Society Member Price \$2,187	American Cancer Society Union for International Cancer Control Japanese Cancer Association(日本癌学会) の会員は、\$2,187に割引き	http://www.wileyopenaccess.com/details/content/12f25e0654f/Publication-Charges.html	
F	Wiley Blackwell (John Wiley & Sons)	Cancer Medicine	20457634		コレスポンディング著者がJCA(日本癌学会)会員の論文については、オープンアクセス掲載料に会員割引が適用される(一般向けUS\$2,250が半額のUS\$1,125に減額)。	http://www.jca.gr.jp/researcher/cancer_science/	
F	Wiley Blackwell (John Wiley & Sons)	MicrobiologyOpen	20458827	Supporting societies members discount 10% Authors submitting directly to the journal who belong to one of our supporting journals' societies receive a 10% discount on the publication charge.	Society for Applied Microbiology (SfAM)の学会員の場合は10%割引	http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/(ISSN)2045-8827/homepage/article_publication_charges.htm http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/(ISSN)2045-8827/homepage/Society.html	

## Scopus から APC を算出する手順書

### 概要

1. Scopus から学内研究者の投稿論文データを抽出する
2. 抽出したデータを整理する
3. Scopus から抽出したデータから、OA ジャーナル掲載論文を抜き出す
4. APC を調べる
5. 著者の所属部局を調べる

## 1. Scopus から学内研究者の投稿論文データを抽出する

### 1. 0 はじめに／Scopus を用いてデータ抽出を行う上での留意点

#### [留意点 1]

Scopus は 1 回の検索で 2,000 件までしか結果を表示できない。 それ以上表示したい時は、以下のように行う。

Case1 : 2,001 件 – 4,000 件

最初に検索結果を「第一著者名 A to Z」でソートし、2,000 件まで表示した後、「第一著者名 Z to A」で再ソートして残りの 2,000 件を表示させる。

Case2 : 4,001 件以上

検索条件を絞り込む、もしくは検索結果をファセットで絞り込み、順次表示させていく。

#### [留意点 2]

物理系の論文等、著者数があまりにも多い論文は出力したデータが壊れている。通常 Scopus から出力したデータは、1 論文=1 行で表示されるが、上記のようなデータは複数行に渡って表示される。ここから必要な情報が記載されているセル（「連絡先住所」と「ISSN」のセル）を見つけ出してそれ以外を削除し、他のデータと同じように 1 行に整形する。

#### [留意点 3]

一般的な【文献検索】で検索した場合、取りこぼすデータが多いので、【詳細検索】を用いて検索する。

1. 1 【詳細検索】にて、以下の条件で検索  
(以下は全て 2014 年の APC を調べる場合)

Scopus Scopus SciVal | ユーザー登録 ログイン ヘルプ 使い

検索 アラート マイリスト

Chrome 45 cease support of Scopus Document Download Manager

文献検索 | 著者検索 | 所属機関検索 | **詳細検索** | 収録誌一覧 | ジャーナル比較

検索語...

ここに以下の検索式を適切なものに  
編集して貼り付ける。

検索のヒント 項目コード

アウトライン表示 | 著者名 / 所属機関名を追加

入力した文字で始まる項目コードの候補が表示されます。ダブルクリックまたはEnterキーで検索欄に追加されます。

**演算子**  
AND  
OR  
AND NOT  
PRE/  
W/  
**項目コード**  
ABS  
AF-ID  
AFFIL  
AFFILCITY  
AFFILCOUNTRY  
AFFILORG  
ALL

詳細検索の例:  
ALL("heart attack") AND AUTHOR-NAME(smith)  
TITLE-ABS-KEY( "somatic complaint wom?n" ) AND PUBYEAR AFT 1993  
SRCITITLE("field omith") AND VOLUME(75) AND ISSUE(1) AND PAGES(53-66)

### 【検索式】

AF-ID(60011001) OR AF-ID(60030354) OR AF-ID(60010881) AND PUBYEAR = 2014  
AND SUBJAREA...

◆ AF-ID = 所属機関 ID。京大の場合は、以下 3 種類。

- ① Kyoto University (ID60011001),
- ② Kyoto University Faculty of Medicine (ID60030354)
- ③ Kyoto University Hospital (ID 60010881)

◆ PUBYEAR = 出版年

◆ SUBJAREA = 主題領域

- ① ライフサイエンス

SUBJAREA(MULT OR AGRI OR BIOC OR IMMUN OR NEUR OR PHAR)

## ② 理学/化学/工学

SUBJAREA(MULT OR CENG OR CHEM OR COMP OR EART OR ENER OR ENGI  
OR ENVI OR MATE OR MATH OR PHYS)

## ③ ヘルスサイエンス

SUBJAREA(MULT OR MEDI OR NURS OR VETE OR DENT OR HEAL)

## ④ 人文社会

SUBJAREA(MULT OR ARTS OR BUSI OR DECI OR ECON OR PSYC OR SOCI)

## 1. 2 検索結果を出力する

検索結果にチェックを付け「エクスポート」する。CSV を選択して、「全項目」をエクスポートする。1 度に大量にエクスポートすると、ファイルのサイズが巨大になりファイルが開けないことがあるため、適宜件数を減らし（例えば 200 件ずつ）エクスポートする。



## 2. 抽出したデータを整理する

### 2. 1 統合と重複削除

小分けに出力したファイルを統合する。

- ・[留意点 2]にあるように、壊れているデータがあるのでこれらは先に抽出し、別ファイルにて整理する。
- ・N、P-X、Z-AA、AC-AF 列（著者所属機関名、抄録・参考文献、編集者・助成金提供機関、会議名・会議コード）を削除する。これにより、ファイルのサイズが大幅に小さくなる。
- ・2014 年で検索したにもかかわらず、なぜか 2015 年や 2013 年のデータがヒットしている。そのため 2014 年以外のデータは削除する。
- ・分野毎に分割出力したため、重複が発生している。「EID」をキーにして、重複削除を行う。

### 2. 2 Corresponding Author が京大のものを抽出

「連絡先住所」の列に、"kyoto university"という文字列が入っているデータだけを抽出する。

※ ただし、"kyoto univresity"など、スペルが誤って入力されていることがある。また京大の住所ではなく、自宅を連絡先として登録している研究者も多い（これらはメールアドレスの kyoto-u.ac.jp で検索すれば拾えることが多い）。

※ 空欄になっているレコードについては、参考資料 2「責任著者空白調査手順書」を参照。

## 3. OA ジャーナル掲載論文だけを抜き出す

### 3. 1 DOAJ からデータの抽出

DOAJ のサイトから、「Download metadata」で、DOAJ 内のデータを出力する。



### 3. 2 DOAJ とのマッチング

DOAJ から出力したデータと、「2.」で作成した Scopus の整理したデータを、ISSN と EISSN をキーにしてマッチングし、京大研究者が OA ジャーナルに投稿した論文を特定する。

## 4. APC を調べる

### 4. 1 APC の金額調査

DOAJ と合致した論文について、過去のファイルとマッチングしたり、URL を参照したりして、APC の金額を調査し記入する。非商業誌も多く含まれているため、それらのデータは削除する。

※ 詳細は、参考資料 3 「APC と割引情報を調べるための手順書」を参照。

### 4. 2 レートの計算

三菱東京 UFJ 銀行の、10 月第 3 月曜日から第 4 週目の金曜日（もしくは 11 月最初の金曜日）までの平均レートを用いて円価格を算出する。

※ 雑誌情報掛にこのレート情報がある。

以上で、全学分の APC のマスターデータは出来上がる。

## 5. 著者の所属部局を調べる

「連絡先住所」に入っている英語の部局名から著者の所属を判断し、所属部局を入力する。終了後に部局別と出版者別にデータを集計する。

以上

## 責任著者空白調査手順書

### 1. 「責任著者空白調査用.xlsx」の条件

- ・連絡先住所が null。
- ・Scopus の ISSN が DOAJ 側の ISSN と一致した (=OA Journal である)。

### 2. 作業手順 :

#### 2. 1 「DOI リンク」(M 列) が空欄ではない場合

- ① 「DOI リンク」(M 列) の URL をブラウザに貼り付ける。
- ② 著者名・タイトルなどが Scopus のデータと一致するか確認する。
- ③ 責任著者が誰か判断する (住所・メールアドレスの有無など)。責任著者が不明の場合、空欄のままとする。
- ④ 住所を転記し、「責任著者名」(N 列) に責任著者の名前を、「連絡先住所」(O 列) にその住所を書き込む。この時、京大の教員で「Kyoto University」という文字列が含まれないデータ (Kyoto Univ. など) であった場合には、あとで検索しやすいよう「Kyoto University」となるよう修正・追加する。

#### 2. 2 「DOI リンク」(M 列) が空欄の場合

- ① 著者名・論題などから検索し、出版社のサイトを見つける。
- ② 著者名・タイトルなどが Scopus のデータと一致し、OA になっているか確認する
- ③ 責任著者が誰か判断する (住所・メールアドレスの有無など)。責任著者が不明の場合、空欄のままとする。
- ④ 住所を転記し、「責任著者名」(N 列) に責任著者の名前を、「連絡先住所」(O 列) にその住所を書き込む。この時、京大の教員で「Kyoto University」という文字列が含まれないデータ (Kyoto Univ.等) であった場合には、あとで検索しやすいよう「Kyoto University」となるよう修正・追加する。この時、DOI が判明しても、書き込む必要は無い。

### 3. 調査後処理 :

変更前の手順に従い責任著者が記入されたデータを調査し、修正する。

作業が完了後、「scopus (集計後) .xlsx」とは別に、「scopus (連絡先記入) .xlsx」を作成する。「責任著者空白調査用.xlsx」「責任著者名」(N 列) と「連絡先住所」(O 列) を「 ; 」(スペース セミコロン) でつなぎ、「scopus (連絡先記入) .xlsx」の「連絡先住所」の列へ記入する。以後の調査において、連絡先住所が記入済みであったレコードと、今回の調査で入力したレコードを区別はしない。



## APC と割引情報を調べるための手順書

### 1. 事前準備

1. 1 Scopus から抽出した京大研究者が **Corresponding Author** のデータについて、CrossRef の API を用いてある程度正規化された出版社名とジャーナル名を加え、出版社名、ジャーナル名ごとにソートする。
1. 2 「1. 1」のデータと DOAJ (含む: APC の金額)、Hybrid OA のデータとのマッチングを行い、OA のデータのみを抽出する。
1. 3 「1. 2」で抽出されたデータについて、昨年度調査した APC の金額情報を付加した一覧を準備する。【=シート「OA 論文一覧」】
1. 4 シート「OA 論文一覧」からジャーナル名、出版社名、ISSN、Hybrid OA か Full OA かの情報を抽出し、ジャーナル名の重複を削除し、割引情報を調査する表を作成する。【=シート「APC 割引一覧」】

### 2. 調査方法

2. 1 シート「OA 論文一覧」「APC 割引一覧」についてジャーナル、出版社をまたがないように担当を割り振る。  
各ジャーナルと出版社それぞれについて、APC と割引情報があるかどうかサイトを見て調べていく。
2. 2 各ジャーナルの APC と割引情報は著者向けのページに書かれている場合が多い。(例を参照)。APC の価格を見つけたら、シート「OA 論文一覧」の「APC」、「通貨」欄に記入する。必要に応じて「APC 備考」欄にも記入する。「APC amount」欄か「APC (from 2013)」欄に APC の値がある (DOAJ か 2013 年のデータから APC が入力されている) 場合は省略してもよい。  
 ※ APC がページあたりの金額となっている場合は、わかる範囲でページ数から実際の金額を記入する。2013 年の APC がページ単価で記入されている場合、論文のページ数をかけて APC を算出する。  
 ※ カラーチャージは APC としては採用しない。  
 ※ 複数通貨で APC が表示されている場合、ドル→ユーロ→ポンドの優先順位で採用する。  
 ※ CC ライセンスはオプションと考え、公開するための最も安い金額を採用する。ただし、エンバーゴを設定することにより安価になるものは、採用しない。即

時公開の中で最も安価な価格を APC として扱う。

2. 3 割引情報には以下のような種類がある。

- ① 著者がそのジャーナルを購読している機関に所属している。
- ② 著者がそのジャーナル（出版社）の有料メンバーシップに参加している機関に所属している。
- ③ 著者が当初同じ出版社の別のジャーナルに投稿し、エディターに当該ジャーナルへの投稿を推薦された（トランスファー）。
- ④ エディターから特に推薦があった。
- ⑤ 著者がそのジャーナルの発行母体の学会員である。
- ⑥ 著者がそのジャーナルのレビュアーやエディターである（であった）。
- ⑦ その他

このうち、①のケースに当たるものについてシート「APC 割引一覧」の I 列「割引の種類」に①を記入する。割引情報の収集段階では、本学での購読情報は気にしなくてよい。その他の種類については「割引の種類」を空欄にする。

- ※ Author 向けのページに割引情報が書かれていることが多い。
- ※ 出版社によっては Open Access について別ページにまとめている場合もあるのでそちらもチェックする。
- ※ サイト内検索で「charge」「fee」「open」「discount」「APC」などのキーワードで検索する。
- ※ 発展途上国の研究者や、資金がない研究者向けの支払い免除規定（たいていどのジャーナルにもある）については無視する。
- ※ 学会員特別割引がありそうな場合、(5 のケース) 学会のページもチェックすることが望ましい。

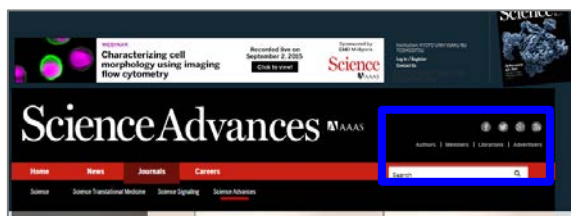
2. 4 出版社によっては、ジャーナルごとに割引オプションを提供している場合と、出版社レベルで全体に割引オプションを提供している場合がある。後者の場合は、出版社用の行を上に行追加し、そこに出版社名と割引情報を記入する。

2. 5 サイト上の情報以外に、JUSTICE 提案等で APC 割引があるかどうか調査する。

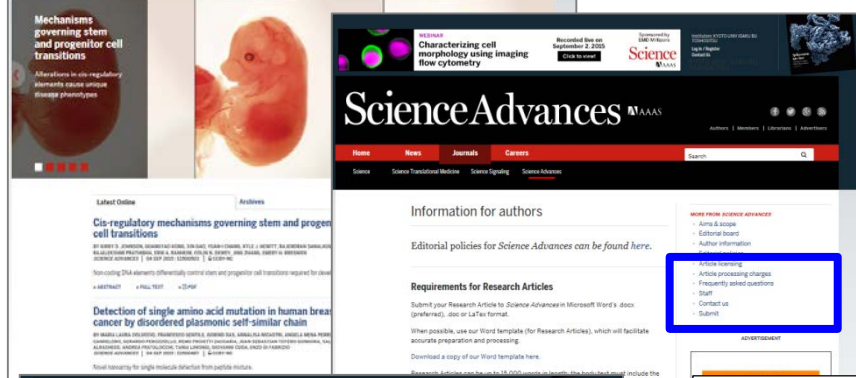
### 3. 画面例

#### (例 1) Science Advances

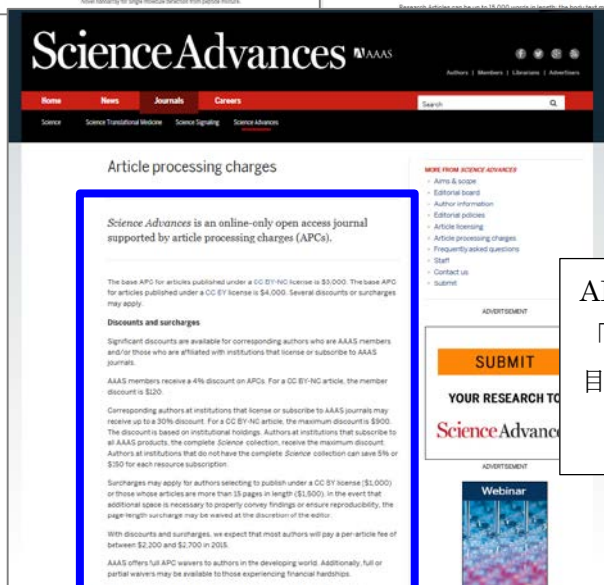
トップページ : <http://advances.sciencemag.org/>



「Authors」のリンクをクリック



「Article processing charges」のリンクをクリック



APC の金額と、  
「Discounts and surcharges」という項目がある。

## (例 2) BMC Bioinformatics

トップページ : <http://www.biomedcentral.com/bmcbioinformatics>

「Instructions for Authors」のリンクをクリック

「About this journal」のリンクをクリック

リンク先に「Article-processing charges」の情報がある。「Supporter Members」のリンクをクリックすると、BioMed Central 全体の「Supporter Membership」のページに遷移する

## インタビュー手引書

### 1. 目的

学内での公費を使用した APC 支払の実態を把握するため、APC を支払う背景について教員にインタビューを実施する。

APC 支払の実態を知ることによって、APC 支払の全学的な把握、費用援助やディスカント情報の提供方法について検討する一助となる。

また、図書館員がこのインタビューを通じて研究者の研究成果公表の実情を知るとは、図書館が取り組む新たな教育・研究活動支援の可能性を広げることになる。

### 2. 手順

インタビューは、メールなどの非対面式調査票調査ではなく、教員からある程度自由に話を聞くことができる半構造化インタビュー形式<sup>(注1)</sup>とする。

- (1) データベースなどでの調査から、APC を支払った教員を特定する。
- (2) 投稿誌や所属部局、APC ディスカウントオプション利用状況を考慮して、インタビューを実施する教員を決定する。
- (3) 被インタビュー教員にアポイントメントをとる。
- (4) 被インタビュー教員の所属部局や周辺部局の WG メンバーを中心に、各教員のインタビュー担当者を決定する。
- (5) 被インタビュー教員の研究室の Web サイト・個人 HP・SNS・研究分野のキーワードで DB 検索・Research Map などでも専門分野・最近の業績（あれば趣味なども）についておおまかに知識を得ておく。ただし、付け焼き刃的知識に基づく質問をしないように注意する。
- (6) インタビューを実施する。
- (7) インタビュー後はできるだけ早くお礼メールを送る。インタビュー中に即答できなかった図書館サービスに関する質問については、インタビュー後にできるだけ早く回答する。
- (8) インタビュー後、回答を所定の様式に記入し、WG メンバーで共有する。
- (9) インタビュー方法や質問について、次のインタビューまでに改善すべきところがないかを検討する。
- (10) 全てのインタビュー終了後、インタビューを分析する。
- (11) 成果活動を公開した際は、被インタビュー教員に知らせる

### 3. 持ち物

- (1) 質問票(インタビュー担当者と被インタビュー教員分の枚数分)
- (2) IC レコーダー
- (3) 筆記用具

- (4) 各質問の要点抜粋（必要であれば）
- (5) 京都大学オープンアクセス方針 PDF

#### 4. インタビュー中の注意点

- (1) インタビューグループの役割分担：質問者（1-2 名）・記録者 1 名（+所属部局の図書系職員など）。
- (2) インタビューの最初に、インタビューの趣旨・目的、発言は匿名化した状態で今回の調査報告のために公開することがあることを伝える。ただし、ここだけの話として聞いたことはここだけで留めることを約束する(WG メンバー程度の共有は可)。
- (3) 質問の順番にはこだわらない。
- (4) 記録者も記録の役割にこだわらず発言可。
- (5) 教員がリラックスして話せるように気を配る。
- (6) インタビューの所要時間は守る。ただし、話が盛り上がったときはこの限りではない
- (7) 質問の回答がなかなか出ない場合は、各質問の補助質問・例示を話す。ただし、質問に対して答えを誘導しないようにする。徹底して聞き役に務め、基本的に相手のいうことを繰り返して相槌をうつ。
- (8) 「今日はこのあたりで…」とインタビューを終わらせようとした後に話がはずむこともあるので、IC レコーダーはすぐに切らない。
- (9) インタビュー後はお礼をしっかりと言う。質問を受けた場合は、後日回答することを約束する。

#### 5. 各質問の要点

- (1) 論文の投稿について
  - 投稿誌がその専門分野でメジャーかどうか
  - かつて投稿したことがある
  - 査読員を務めたことがある
  - 出版社からの勧誘
- (2) オープンアクセスについて
  - オープンアクセスにすることへの不安
  - 研究コミュニティでの評価
  - 公的資金を使用した研究の成果を公開すべきという世の中の風潮
- (3) APC について
  - 論文購読にかかる費用はどのプレイヤーが負担すべきか
  - 他の雑誌や当該専門分野の雑誌での平均的金額
- (4) APC ディスカウントオプションについて
  - ディスカント情報を研究者に知らせるのは、
    - ・ 投稿前に機構サイト・図書館からのお知らせメール・学内サイト
    - ・ 投稿時・支払時に出版社サイト

- ・ 支払後に戻入
  - ・ 支払後、翌年度等の大学へのディスカウントに反映
- (5) ハイブリッドジャーナルについて
- ・ 二重払いと考えていない研究者も多い。所属機関はもとより、研究者コミュニティへの公開も重要だと考えているので。
- (6) 京都大学オープンアクセス方針について(オープンアクセス方針 PDF を示しながら)
- ・ 海外では大学・学術機関・コンソーシアム・国が方針を定めていることもある。
  - ・ 日本での大学としての方針制定は初めて。実施運用は今年度末頃の予定。
- (7) その他

(注 1) 半構造化インタビュー (semi-structured interview) : インタビュー調査において、質問や回答方法があらかじめ決まっていることを「構造化」されているといい、その程度によって、インタビューは、構造化、半構造化、非構造化の 3 つに分けられる。構造化インタビューは、面接調査における質問方法で、質問は調査票の順番通りにたずねられる。非構造化インタビューでは、質問はあらかじめ決められておらず、インタビューの会話の流れの中で、状況に応じて発せられる。半構造化インタビューは、構造化インタビューと非構造化インタビューの中間で、質問はあらかじめおおよそ決めてはいるものの、調査者は話題の展開に応じて、質問の順番を変えたり、より詳細な説明をもとめる質問を付け加えたりするなど臨機応変に行うインタビューである。

(参考 : 一般社団法人社会調査協会「社会調査基礎用語」  
<http://jasr.or.jp/online/content/glossary/glossary.html>)

## APC に関するインタビュー

投稿誌：  
論 文：  
掲載費用：

### 1. 論文の投稿について

- (1) なぜ今回は、当該雑誌に投稿されたのですか？  
投稿する雑誌を選ぶ判断基準についてご教示ください。

### 2. オープンアクセスについて

- (1) 自論文をオープンアクセスにするメリットは何だと思われますか？
- (2) オープンアクセスにすることについて、事前に懸念していたことはありますか？ また、それは解消されましたか？
- (3) オープンアクセスにしたことで、何か効果を感じたことはあったでしょうか？
- (4) 自論文について今後もオープンアクセスにされるご希望はありますか？  
有料であってもオープンアクセスにしたいと思いませんか？
- (5) 公的研究資金を受けた論文はオープンアクセスにするという動きがありますが、どう  
思われますか？



### 3. APC について

- (1) 今回の APC 費用金額は、適当だと思われますか？
- (2) APC 費用を支払われるにあたり、どのくらいだと躊躇されますか？
- (3) 今回お支払された予算を教えてくださいませんか？
- (4) それ以外の予算で支払うこともありますか？
- (5) 研究室の所属者、例えば自分の財源を持っていない大学院生等の APC を研究室や先生の公費で負担することはありますか？
- (6) APC 費用を大学が支援（負担）する制度は必要だと思いますか？

**4. APC ディスカウントオプションについて**

- (1) APC にはディスカウントオプション（割引）がある場合がありますが、今回の額は定価ですか／それとも割引された額ですか？割引の情報はどこで／どのタイミングで知りましたか？

- (2) 先生方にディスカウントオプションをお知らせする際、どのような周知方法が効果的だと思われますか？

5. ハイブリッドジャーナルとは、京大では既に購読料を支払っている雑誌で、学内構成員は全文閲覧可能です。学内における重複費用の支払いについては、どのようにお考えですか？

6. 「京都大学オープンアクセス方針」はご存知ですか？ どのように思いますか？

7. その他、オープンアクセスや電子ジャーナルに関してご意見などありますか？

## 京都大学オープンアクセス方針

平成 27 年 2 月 20 日 図書館協議会承認

平成 27 年 4 月 14 日 部局長会議承認

平成 27 年 4 月 28 日 教育研究評議会承認

平成 27 年 4 月 28 日 役員会承認

### (趣旨)

1. 京都大学は、本学に在籍する教員(以下「教員」という。)によって得られた研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに、情報公開の推進と社会に対する説明責任を果たすために、オープンアクセスに関する方針を以下のように定めるものとする。

### (研究成果公開の権限)

2. 京都大学は、出版社、学会、学内部局等が発行した学術雑誌(図書等を除く)に掲載された教員の研究成果(以下「研究成果」という。)を、京都大学学術情報リポジトリ(以下「リポジトリ」という。)によって公開する。ただし、研究成果の著作権は京都大学には移転しない。

### (適用の例外)

3. 著作権等の理由でリポジトリによる公開が不適切であるとの申し出が教員からあった場合、京都大学は当該研究成果を公開しない。

### (適用の不遡及)

4. 本方針施行以前に出版された研究成果や、本方針施行以前に本方針と相反する契約を締結した研究成果には、本方針は適用されない。

### (電子データの提出とリポジトリへの登録)

5. 研究成果の発行版がリポジトリでも公開可能である場合、京都大学は当該発行版をリポジトリに登録することができる。発行版の公開は禁じているが著者版の公開を許している場合、研究成果の公開に同意した教員は、著者最終稿等を、できるだけすみやかに京都大学へ提出する。リポジトリへの登録・公開、公開後のデータ利用等、リポジトリに関わる事項は、「京都大学学術情報リポジトリ運用指針」に基づき取り扱う。

### (その他)

6. 本方針に定めるもののほか、オープンアクセスに関し必要な事項は、関係者間で協議して定める。

## Kyoto University Open Access Policy

approved

by Kyoto University Library Network Board on February 20, 2015;

by Deans and Directors Meeting on April 14, 2015;

by Education and Research Council on April 28, 2015;

by Board of Executive Directors on April 28, 2015

### (Objective)

1. To assure open access to published products of Kyoto University faculty research to further research and public accountability.

### (Access Rights)

2. Kyoto University Research Information Repository (hereafter “Repository”) shall provide open public access to Kyoto University faculty research published in journal articles without acquiring copyright.

### (Waiver)

3. Kyoto University exempts research requesting copyright or similar protection.

### (Non-retroactive)

4. This policy exempts research published prior to its implementation or contractually conflicting with it.

### (Electronic Data Submission)

5. The Repository shall disclose published versions of research whenever permitted. If a publisher prohibits open access to the published version but allows open access to final prepublication manuscripts, researchers should submit their final prepublication manuscripts to the Repository. Deposit, release, subsequent use, and all other issues related to the Repository shall be implemented in accordance with Kyoto University Research Information Repository Operational Guidelines.

### (Others)

6. Open access issues unstated in this policy shall be negotiated by the parties concerned.

京都大学図書館機構 APC ワーキンググループメンバー

鈴木 秀樹 (附属図書館情報管理課)  
坂本 拓 (附属図書館情報サービス課参考調査掛主任)  
塩野 真弓 (附属図書館情報管理課雑誌情報掛)  
長坂 和茂 (附属図書館情報管理課雑誌情報掛)  
佐藤 りん (附属図書館情報管理課電子情報掛)  
西川 真樹子 (北部構内事務部共通図書掛主任)  
八木澤ちひろ (医学研究科教務・学生支援室 図書掛 (医学図書館))  
古森 千尋 (桂地区 (工学研究科) 事務部図書掛化学系 (桂))

(オブザーバ)

天野 絵里子 (附属図書館研究開発室 (学術研究支援室))

(\*所属は平成 28 年 2 月 29 日現在)